

平成25年度

シラバス

5年次

(臨床実習1・2)



自主創造
日本大学

日本大学松戸歯学部

臨床実習にあたって

皆さんは、今、歯科医師として社会にでる最終段階にあります。歯学部教育のなかで最も重要な時期にあるといえます。それは、これまで学んできた基礎よび臨床歯科医学科目の知識・技術を実際の臨床の現場で生かすことができるからです。共用試験を通過し、これから行う院内での臨床実習は、許された「歯科医行為」になります。各水準に分類されていますが、皆さんが行う行為は、すべて患者さんに直接接触れることから始まります。その実感と喜びと責任を自覚して下さい。

これから歯科医師として厳しい社会に参画し、プロフェッションとして社会から期待されることとなります。プロフェッションは法的に認定された資格であること、長い期間の教育、訓練による知識・技術の取得があることが前提条件ですが、さらに、高い倫理規定や行動規範をもち、自律的に質の担保を保証できなければなりません。歯科医療は、時に人の生き方に踏み込み、その人生を変えてしまうほどの行為でもあります。皆さんが行うすべての歯科医療行為や言動について、「1本の歯牙への治療（侵襲）は全身におよび呼吸・循環・代謝・内分泌に確実に影響を与えている。」という自覚をもって下さい。

本学のカリキュラムは、診療参加型臨床実習を念頭において改正を行ってきています。臨床のための知識・技術の修得はもちろんですが、より良き医療人としての「心構え」も身につけて下さい。次世代を担うみなさんは、全人的歯科医療を実践できる歯科医師でなければなりません。臨床実習は、毎日が勝負です。同じ症例は二つとありません。すべてが患者さんから学ぶのです。患者さんという一人の人間に対峙したとき、持てる知識と技能のすべてを十分に機能させ、適切な歯科医療を実践できるよう最大限の努力をして下さい。臨床実習では、一瞬一瞬のすべてが真剣勝負であり、患者さんから全幅の信頼をうけて臨床実習の場に臨まなければなりません。恥ずかしくないように学習能力を高めて下さい。シラバスは、その道標になるための教材です。予習復習に充分活用して、松戸歯学部の院内生としての自覚をもって、日々を送ることを期待しています。

松戸歯学部長 渋谷 鑛

目 次

学部長訓示	
目次	
臨床実習1・2の成績評価	1
班別名簿	3
SD診療	
SD診療	5
SD診療フローチャート	6
臨床実習1	
臨床実習1の実施方法	9
臨床実習1配属表	11
初診科	18
臨床検査科	19
放射線科	20
保存科	21
歯周科	26
補綴科	29
口腔外科	33
矯正歯科	34
小児歯科	35
麻酔・全身管理科	36
特殊歯科	37
再生歯科	39
顎関節・咬合科	40
口腔インプラント科	41
スポーツ健康歯科	43
職員技工室の配属	44
臨床実習2	
臨床実習2の実施方法	45
臨床実習2配属表	46
初診科	47
臨床検査科	48
放射線科	49
保存科	50
歯周科	52
補綴科	54

口腔外科	57
矯正歯科	58
小児歯科	59
麻酔・全身管理科	60
特殊歯科	61
再生歯科	63
顎関節・咬合科	64
口腔インプラント科	65
スポーツ健康歯科	67
院内生担当患者分類フローチャート	68

平成25年度臨床実習1および2の成績評価方法

1 評価

- 1) 臨床実習1および2それぞれの評価項目は、各診療科におけるローテーションポリクリ、ポートフォリオ、配属先各診療科臨床実習、治療計画に基づく進行状況および臨床能力到達試験（OSCAT）とする。
- 2) 臨床実習1および2の評価項目と重み付けを下記に定め総合評価をもって行う。

2 評価項目

1) 臨床実習1

- ① ポートフォリオ（10%）
- ② SD診療（25%）
- ③ 配属先各診療科における臨床実習（45%）
- ④ ローテーションポリクリ（20%）

2) 臨床実習2

- ① ポートフォリオ（10%）
- ② SD診療（25%）
- ③ 配属先各診療科における臨床実習（40%）
- ④ 臨床能力到達試験（Objective Structured Clinical Achievement Test: OSCAT）（25%）

3) 配属先各診療科における臨床実習の評価

- ① 初診科
- ② 臨床検査科・病理診断科
- ③ 放射線科
- ④ 保存科（再生歯科を含む）
- ⑤ 歯周科
- ⑥ 補綴科（顎関節・咬合診療科、スポーツ健康歯科を含む）
- ⑦ 口腔外科（口腔インプラント科を含む）
- ⑧ 矯正歯科
- ⑨ 小児歯科
- ⑩ 麻酔・全身管理科
- ⑪ 特殊歯科

3 評価基準

- 1) 評価方法はいずれも100点法で行う。
- 2) 2-1) および2) の評価項目中、1項目において60点未満の評価があった場合、臨床実習の評価は0-59点とする。
- 3) 2-3) の評価項目中、1診療科において60点未満の評価があった場合、臨床実習の評価は0-59点とする。

4 付記

- 1) アポイント帳による配当（担当）患者のアポイント等による評価を加点する場合がある。

5 出欠席

- 1) 臨床実習期間中（診療日全日，但し冬季休業中は除く）は，原則として欠席は認めない。ただし傷病に応じて（診断書を要する）対応するので申し出ること。
- 2) 欠席時間を次の通り置き換える。
欠席日数1日を1ポイントとする。遅刻1回を0.5ポイントとする。早退1回を0.5ポイントとする。
- 3) 公用欠席は欠席時間に入れない。
- 4) 1ヵ月に6ポイント以上の欠席は，部長・科長会に報告される。
- 5) 臨床実習1および臨床実習2各々について22ポイント以上の欠席者は評価を0-60点とする。
- 6) 欠席，遅刻，早退届けは早急に治療計画室に提出しなければならない。なお，連続して3日以上欠席する場合は，あらかじめ（約1ヵ月前）書面で必要事項を記入し欠席期間を報告しなければならない。

平成25年度 5年次臨床実習1班別名簿(121名)

★ 総班長 網野 雄太
 ☆ 総副班長 大矢 明日香
 ○ 班長 櫻井 精育
 △ 副班長

A (10名)			B (10名)			C (10名)			D (10名)			E (10名)			F (10名)		
院内番号	学生番号	氏名															
△ 1	39001	秋鹿 妙い	1	39013	井戸 宏実	1	39019	宇治川 極子	☆ 1	39031	大矢 明日香	1	37032	笠原 万記子	1	39045	久保 幸輝
2	39002	阿部 圭甫	△ 2	39014	伊藤 射雅	2	39024	臼杵 源一郎	2	39131	岡田 恵理子	2	39039	加藤 有悟	2	37040	熊木 健二
★ 3	39003	網野 雄太	3	39013	伊藤 陽一郎	○ 3	39025	梅田 晃次	△ 3	39032	岡田 英之	3	38042	金子 貴則	3	38049	黒澤 崇史
4	39004	新井 恵太	4	39017	井上 莉沙	4	39025	大石 常貴和	4	38032	小川 泰宏	4	39040	上村 亮太	4	39047	桑島 彩
5	39005	新崎 啓介	5	39018	猪瀬 景子	5	39026	太田 雄介	5	38035	奥平 祐子	△ 5	38047	喜島 里江	5	39048	小林 諒
6	38007	飯島 啓基	6	39019	今泉 朋久	6	39027	大谷 友加里	○ 6	39033	小倉 由希	○ 6	39041	北野 祥真	☆ 6	39049	櫻井 精育
○ 7	39006	飯田 駿	7	39021	岩田 知予	7	38028	大塚 航平	7	38036	尾崎 剛	7	39042	北村 脩	○ 7	39050	櫻井 浩平
8	39008	池田 大地	○ 8	39022	岩根 将大	8	37031	影島 友久	8	39035	小田 香織	8	37051	酒井 暁弘	8	39051	佐々木 康平
9	39012	市川 一國	9	38018	岩橋 諒	9	39028	大塚 寛晃	9	35042	郡司 一広	9	39043	北本 和也	9	38061	柴田 直子
10	37012	井出 泰介	10	39023	岩本 早織	△ 10	39029	大峰 紗かり	10	39036	小野 公敬	10	38048	木村 陽祐	△ 10	39054	島津 裕美
G (10名)			H (10名)			I (10名)			J (10名)			K (10名)			L (10名)		
院内番号	学生番号	氏名															
1	39055	清水 妃呂花	1	39071	遠山 雅好	1	38097	野林 講平	1	39088	星野 貴生	○ 1	39101	望月 剛	1	39113	横田 美保
2	39058	鈴木 祥恵	○ 2	39072	登坂 悠也	2	39082	比嘉 桂子	2	39090	鱒 淵智規	2	39102	森嶋 大輔	○ 2	39114	吉崎 聡
3	39059	鈴木 麻友	3	39073	富田 敏史	○ 3	39083	兵頭 克弥	3	39093	松村 称子	△ 3	39103	矢田 崇子	3	38121	山口 大路
4	39060	鈴木 麻由	4	37076	豊田 梨奈	4	39133	平野 隆	4	39095	眞野 善広	4	39104	山口 はるか	4	39135	吉田 知尋
5	39061	須田 菜月	△ 5	39074	中澤 貴士	△ 5	39085	伏見 習	○ 5	39134	水谷 聖人	5	39106	山崎 陽祐	5	38125	吉田 哲郎
6	38074	高橋 優美	6	39075	永澤 麻梨奈	6	39086	藤村 亮介	6	36103	藤城 康祐	6	39108	山田 尚迪	6	39115	吉田 花絵
○ 7	39062	関原 啓智	7	38089	永田 瑛梨奈	7	38107	古畑 有理	△ 7	39096	水野 央康	7	39109	山田 真衣	7	39117	和田 健
8	38075	岳 亜希子	8	38091	中山 美希	8	38108	古本 由美	8	39098	宮田 昂樹	8	39110	山本 千博	8	39118	和田 恭昌
△ 9	39067	高橋 侑裕	9	38093	西部 有紀	9	38109	風呂川 聡	9	39099	村上 絵理	9	37105	宮崎 宏樹	9	39119	渡辺 新
10	39068	高山 大輝	10	39080	野中 真帆	10	38110	保坂 歩	10	39100	村上 紗也	10	39112	湯本 萌美	10	37123	吉田 雅美
															△ 11	39120	渡邊 昂洋



SD 診療

シラバス

平成25年度 臨床実習1・2 (5月～3月)

診療科名：SD診療室

担当教員名

口腔外科：西村 均、田中茂男、池谷美和

保存科：神谷直孝、鈴木英明、川島正、岡部 達

補綴科：伊藤誠康、飯島守雄、木本 統、中田浩史、大村祐史、田中孝明、後藤治彦

歯周科：中山洋平、吉野祥一、高井英樹、目澤 優、大橋顕二郎、鈴木桃子

実施場所：2階診療室・歯周科診療室・口腔外科診療室、カンファレンスルーム

① ユニット課題

- 1) 治療計画立案
- 2) 治療進行
- 3) 自験

② 到達目標 (GIO)

患者の問題に基づいた情報収集・検査・診断を行い、一口腔単位の治療計画立案と診療を円滑に行うために必要な、知識・技能・態度を修得する。

③ 行動目標 (SBOs)

1. 患者の病態を整理できる。
2. 患者の病態を過去の経過を含め指導医へ報告する。
3. 患者のプロブレムに関する検査法を選択できる。
4. プロブレムに基づいた検査結果を解釈できる。
5. 検査結果に基づき診断ができる。
6. 最終治療計画を順次性をもって立案できる。
7. 患者に治療計画を説明できる。
8. 計画に基づき治療を進行できる。
9. 患者の背景を理解し治療時の配慮ができる。
10. 患者アポイントのマネージメントができる。
11. 自験が出来る
12. 技工操作が出来る
13. 治療の進行を記録できる。
14. 治療計画の変更について対応できる。
15. 治療終了時の考察を行うことができる。
16. 終了後のメンテナンスを患者に説明できる。

④ 学習方法 (LS)

SBOs 1) 2)：カンファランス

SBOs 3) 4) 5)：ポストカンファランス、CCファイル

SBOs 6) 10) 11) 12)：CCファイル

SBOs 7) 8) 9) 13)：診療室

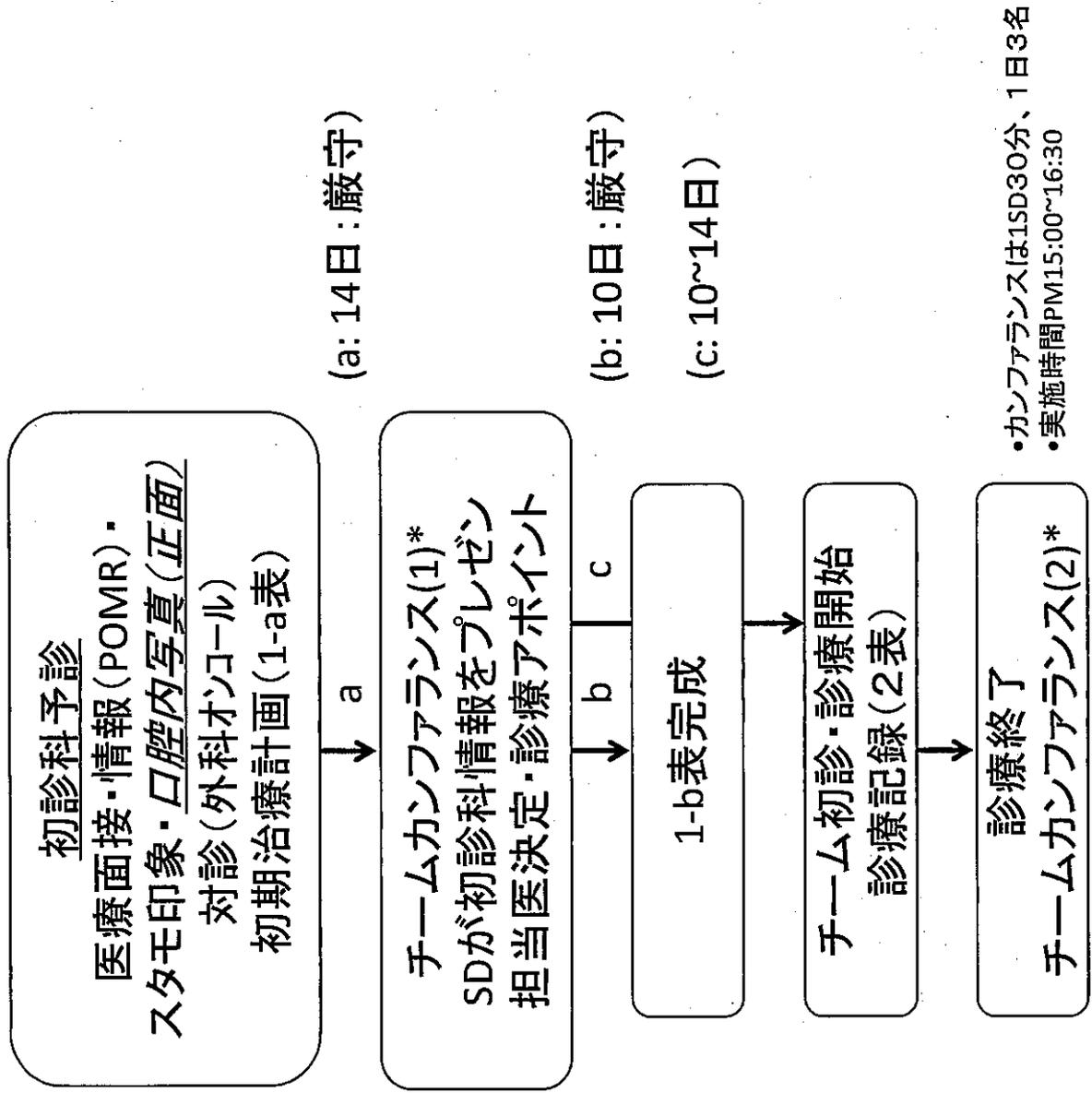
⑤ 評価方法 (EV)

- 1) カンファランス
- 2) CCファイル
- 3) 実習態度
- 4) 積極性 (自験・技工・患者管理)

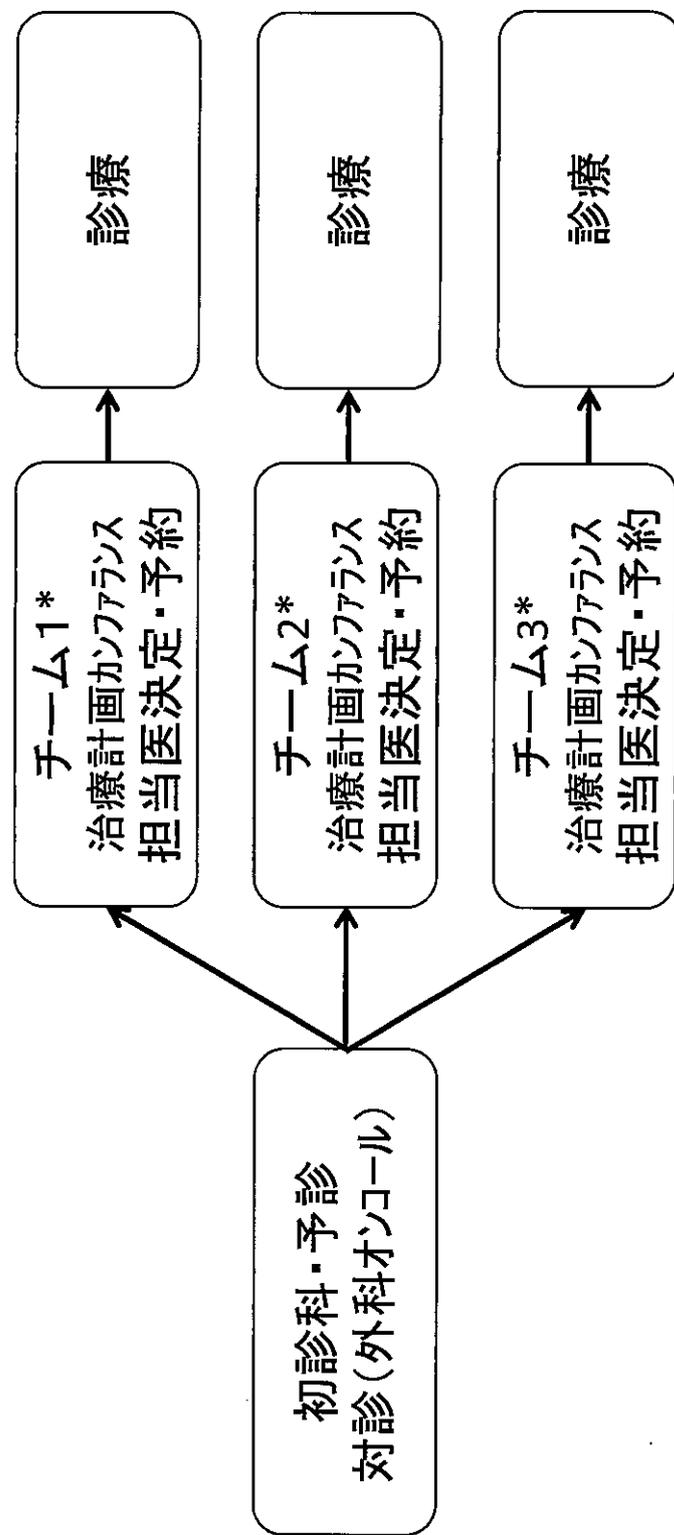
⑥ 備 考 (その他留意事項等)

- 1) SD診療はSDが進んで指導医の指導下で診療に参加する、参加型臨床実習です。診療チームの一員であるという自覚、責任と積極性をもって臨むこと。
- 2) 時間および期限を遵守すること
- 3) 常に患者の立場になり行動をすること。
- 4) 医療人としての振る舞いを常に意識すること。

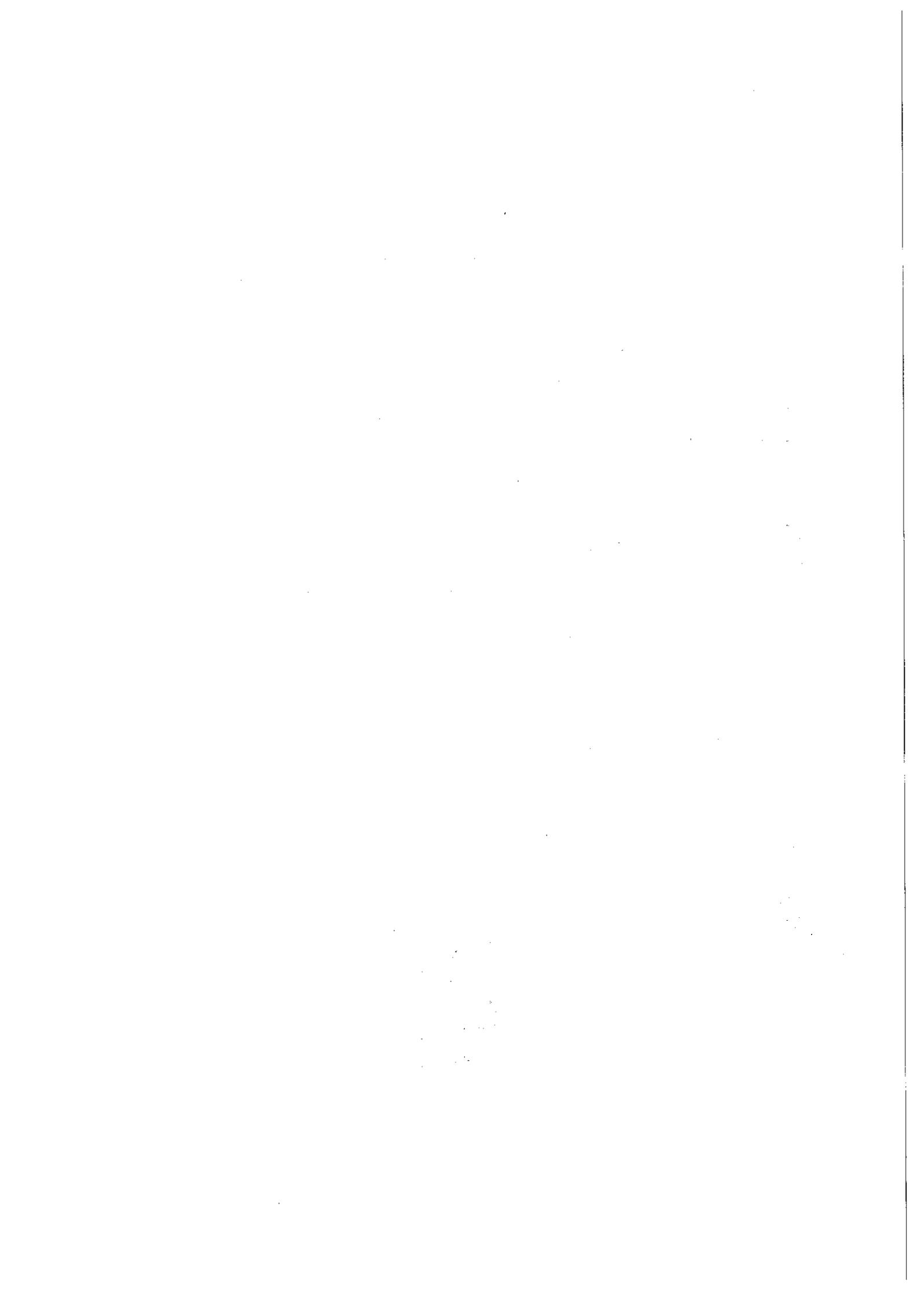
SD診療と予診・CC-file・カンファランス



予診からSD診療室へ



*治療計画カンファランスはチームごとに行う



臨床実習 1

シラバス

臨床実習 1 の実施方法

1. 実習のシステム

- 1) 現行の 12 班を、第 1 グループ (A・B 班)、第 2 グループ (C・D 班)、第 3 グループ (E・F 班)、第 4 グループ (G・H 班)、第 5 グループ (I・J 班)、第 6 グループ (K・L 班) に 6 分割する。
- 2) セメスターを 6 期に分割する。
- 3) 各グループは、期間単位で配属表に従いローテイトする。

2. 各診療科の臨床実習

- 1) 担当患者さんの診療は担当医員のアポイントのもとに行い、配属とは無関係に行う。
- 2) 臨床検査科、特殊歯科は配属により、口腔インプラント科は口腔外科配属期間中に班別実習およびアポイントにて行う。
- 3) 放射線科はセメスター期間を通して配属によって行う。
- 4) 初診科、小児歯科、矯正歯科および麻酔・全管科は、セメスターの期間を通してアポイントにより行う。但し、見学・介補等については期間単位で指定された期間に行う。
- 5) 再生歯科、顎関節・咬合科、スポーツ健康歯科は配属期間中に、医科は、セメスターの期間を通して自由にアポイント等により行う。
- 6) 予診（診断情報）の収集は、日程表に従い行う。
- 7) SD 診療のカンファランスは日程表に従い行う。
- 8) 全ての診療科の臨床実習は、学生のアポイント帳に実習時間（内容）を記載・検印して行う。

3. 臨床実習ノート・CC (SD) ファイル

臨床実習における見学・介補、実技等の実習内容の記録として、各診療部の指示により使用する。臨床実習ノートには患者様の氏名、住所、電話番号等は記載してはならない。
患者さんの情報が記載されているためこのノートの管理には十分注意すること。

4. アポイント帳

診療のアポイントに際して予約検印を受け、診療時あるいは診療後に指導医員に終了検印を受ける。見学・介補の際も同様に指導医員欄に検印を受ける。

5. 新患担当

2名の患者さんを SD 診療にて担当する。なお、SD 診療のアポイントは配属等と重複しないよう調整するが、重複した場合は SD 診療のアポイントを優先する。その場合、配属等の教員にその旨を説明し、配属を離れる時間を明確にしてから SD 診療の患者さんの対応にあたること。

6. 引継ぎ患者

新患担当患者さんおよび引継診療患者様とあわせて約 10 数名の患者さんを常に担当する。実習期間に終了、中止等の場合は治療計画書の変更手続き等を治療計画室に必ず届け出ること。随時補充をうけることとなる。

7. 出欠席について

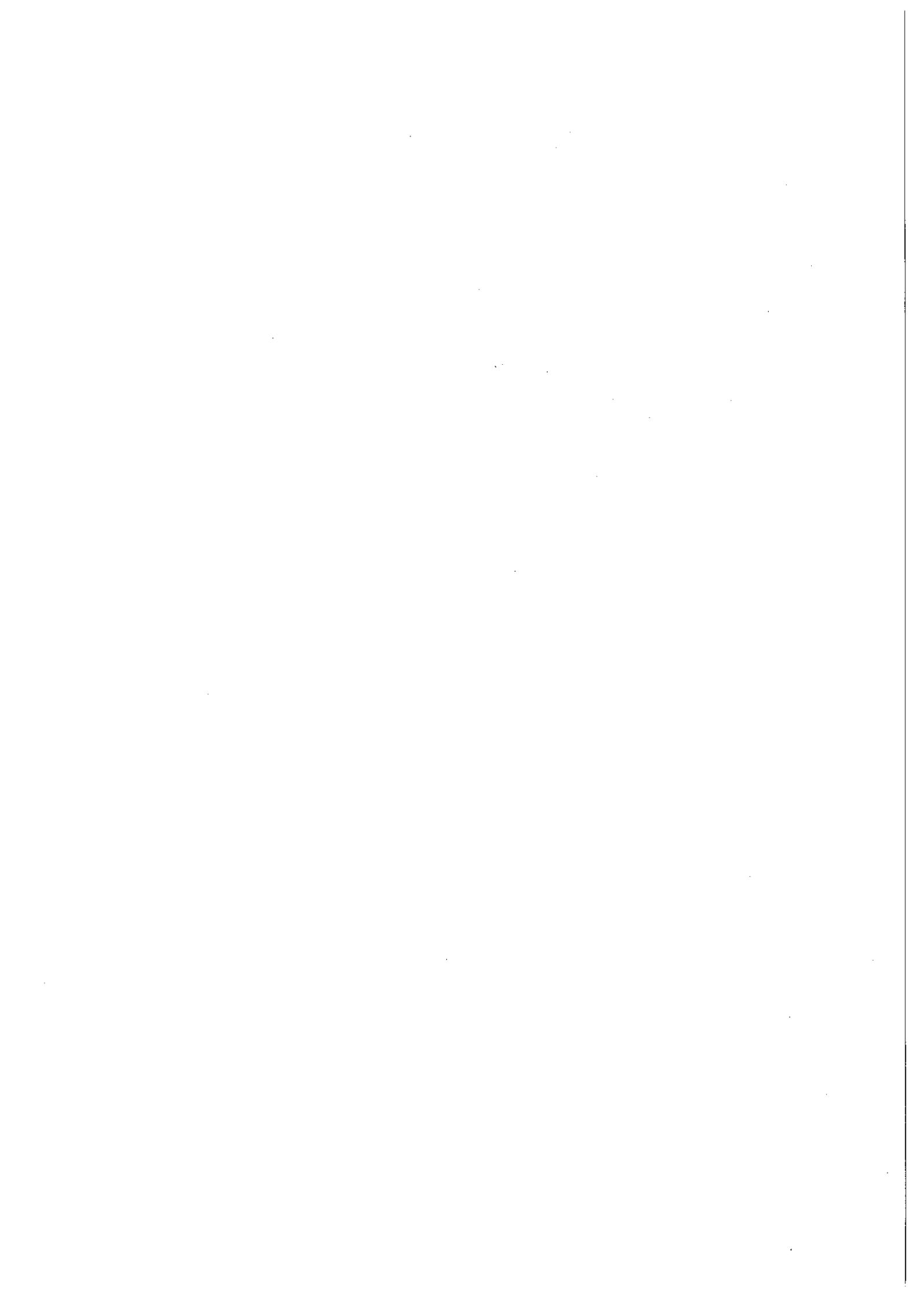
午前 月～土 テーマ別講義 1 で出席調査 8:35

午後 月～金 16:30 土 13:00 各配属先診療科

朝出欠席調査時は院内白衣に着替えておくこと（着替えていない場合欠席とみなす）。

テーマ別講義 1 に関する試験実施日は、朝の出席は試験の出欠をもって行う。

注) 臨床実習の実施方法についての詳細は日程表を参照のこと。



平成25年度 臨床実習1 配属表

期	1	2	3	4	5	6	
週日+土曜日	14+2	14+3	13+3	19+3	27+1	18+5	
期間	5月1日～5月22日	5月23日～6月11日	6月12日～6月30日	7月1日～7月26日	7月27日～9月3日	9月4日～9月30日	
担当患者の処置	セメスター期間を通してアポイントによって行う						
班	初診科, SD診療室(カンファラ), 放射線科, 小児歯科, 矯正歯科, 特殊歯科, 臨床検査科, 技工室: セメスター期間中配属, アポイントにより行う 麻酔・全身管理科: 配属期間中の個別アポイントにより行う。 口腔インプラント科: 班別実習, 配属期間中に個別アポイントにより行う 再生歯科, 顎関節・咬合診療科, スポーツ・睡眠健康歯科, 医科: 臨床実習1の期間中, 自由にアポイント等により行う						
A, B	班別配属	口腔外科	保存科・歯周科	補綴科	口腔外科	保存科・歯周科	補綴科
	配属中の個別アポイント	麻酔・全身管理科 口腔インプラント科	麻酔・全身管理科		口腔インプラント科		
C, D	班別配属	補綴科	口腔外科	保存科・歯周科	補綴科	口腔外科	保存科・歯周科
	配属中の個別アポイント		口腔インプラント科			麻酔・全身管理科 口腔インプラント科	麻酔・全身管理科
E, F	班別配属	保存科・歯周科	補綴科	口腔外科	保存科・歯周科	補綴科	口腔外科
	配属中の個別アポイント			麻酔・全身管理科 口腔インプラント科	麻酔・全身管理科		口腔インプラント科
G, H	班別配属	口腔外科	保存科・歯周科	補綴科	口腔外科	保存科・歯周科	補綴科
	配属中の個別アポイント	麻酔・全身管理科 口腔インプラント科	麻酔・全身管理科		口腔インプラント科		
I, J	班別配属	補綴科	口腔外科	保存科・歯周科	補綴科	口腔外科	保存科・歯周科
	配属中の個別アポイント		口腔インプラント科			麻酔・全身管理科 口腔インプラント科	麻酔・全身管理科
K, L	班別配属	保存科・歯周科	補綴科	口腔外科	保存科・歯周科	補綴科	口腔外科
	配属中の個別アポイント			麻酔・全身管理科 口腔インプラント科	麻酔・全身管理科		口腔インプラント科

* 配属の詳細日程表を参照のこと

平成25年度

平成25年度				5月																							
	内容	方法	形式	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22		
				水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水		
				第1期																							
初診科	実地・見学・介補等 予診(患者記号)	3名1組 終日2日	配属	I-1	I-4					I-7	I-10	J-3	J-5				J-8	K-2	K-5	K-8	L-1			L-4	L-7	L-10	
				I-2	I-5					I-8	J-1	J-4	J-7				J-10	K-3	K-6	K-9	L-2			L-5	L-8	L-11	
				I-3	I-6					I-9	J-2	J-5	J-8					K-1	K-4	K-7	K-10	L-3			L-6	L-9	A-1
SD診療室患者の カンファランス	カンファランス	3名1組	配属																I-1	I-4						I-7	I-10
																			I-2	I-5						I-8	J-1
																			I-3	I-6						I-9	J-2
臨床検査科	見学・介補	6名1組 1日 (月～金曜日)	配属							F-3			G-9					I-3			J-9					A-3	
										F-4			G-10					I-4			J-10					A-4	
										F-9			H-3					I-9			K-3					L-3	
										F-10			H-4					I-10			K-4					L-4	
										G-3			H-9					J-3			K-9					L-9	
										G-4			H-10					J-4			K-10					L-10	
																										L-11	
放射線科	見学・実技	4名1組 終日2日連続	配属	A-1	A-1					A-5	A-5	C-1	C-1					B-1	B-1	B-5	B-5	B-9			B-9	A-8	A-8
				A-2	A-2					A-6	A-6	C-2	C-2					B-2	B-2	B-6	B-6	B-10			B-10	A-10	A-10
				A-3	A-3					A-7	A-7	C-3	C-3					B-3	B-3	B-7	B-7						
				A-4	A-4					A-8	A-8	C-4	C-4					B-4	B-4	B-8	B-8						
補綴科	実地・見学・介補等		配属	CDIJ																							
保存科	実地・見学・介補等		配属	EFKL																							
歯周科	実地・見学・介補等		配属	EFKL																							
口腔外科	実地・見学・介補等 病棟見学会		配属	ABGH																							
小児歯科	見学・介補	水・木・金・土 2～4名配属	配属	B-1	B-5												B-9			C-1	D-1	C-5	C-9				
				B-2	B-6												B-10			C-2	D-2	C-6	C-10				
				B-3	B-7														C-3	D-3	C-7						
				B-4	B-8														C-4	D-4	C-8						
矯正科	症例分析・ 治療計画の立案	4名1組 終日2日	配属	C-1	C-5					C-9	D-1	D-5	D-9	E-1				E-5	E-9	F-1	F-5	F-9			G-1	G-5	
				C-2	C-6					C-10	D-2	D-6	D-10	E-2				E-6	E-10	F-2	F-6	F-10			G-2	G-6	
				C-3	C-7						D-3	D-7		E-3				E-7	F-3	F-7					G-3	G-7	
				C-4	C-8						D-4	D-8		E-4				E-8	F-4	F-8					G-4	G-8	
再生歯科 顎関節咬合診療科 スポーツ健康歯科	見学・介補		アポイント																								
口腔インプラント科	見学		配属 アポイント	ABGH																							
			実習							B	H		A	G													
麻酔・全身管理科	見学	5～6名1組 1日 (火・木曜日)	アポイント	ABGH																							
特殊歯科	見学・介補・口頭試問	2名1組 1日 (月～金曜日)	配属							F-1	F-7	G-7				H-1	H-7	D-1	I-7	J-1				J-7	K-1	K-7	
										F-2	F-8	G-8				H-2	H-8	D-2	I-8	J-2				J-8	K-2	K-8	
医科	見学	3名1組 1日 (月～金曜日)	アポイント 希望選択																								
技工室		2名1組 (月～金曜日)								F-5	G-5					H-5	I-5	J-5							K-5		
										F-6	G-6					H-6	I-6	J-6							K-6		
出欠席確認 午前 テーマ別講義1 (月～土 8:35 401) 午後 配属先 17:00 (土:13:00)	保存・補綴科 (4班)			AB/CD																							
	3F再生歯科/スポーツ健康歯科 (2班)			EF																							
	口腔外科 1班			G																							
	歯周科 1班			H																							
	初診科 1班			I																							
	小児歯科 1班			J																							
	放射線科 1/2班			K1～5																							
特殊歯科 1/2班			K6～10																								
矯正歯科 1班			L																								

臨床実習1

6月																																							
23	24	25	26	27	28	29	30	31	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	
第2期															第3期																								
A-2	A-5			A-8	B-1	B-4	B-7	B-10			C-3	C-6	C-9	D-2	D-5		D-8	E-1	E-4	E-7	F-1			F-4	F-7	F-10	G-3	G-6		G-9	H-2	H-5	H-8						
A-3	A-6			A-9	B-2	B-5	B-8	C-1			C-4	C-7	C-10	D-3	D-6		D-9	E-2	E-5	E-8	F-2			F-5	F-8	G-1	G-4	G-7		G-10	H-3	H-6	H-9						
A-4	A-7			A-10	B-3	B-6	B-9	C-2			C-5	C-8	D-1	D-4	D-7		D-10	E-3	E-6	E-9	F-3			F-6	F-9	G-2	G-5	G-8		H-1	H-4	H-7	H-10						
J-3	J-6			J-9	K-2	K-5	K-8	L-1			L-4	L-7	L-10	A-2	A-5		A-8	B-1	B-4	B-7	B-10			C-3	C-6	C-9	D-2	D-5		D-8	E-1	E-4	E-7	F-1					
J-4	J-7			J-10	K-3	K-6	K-9	L-2			L-5	L-8	L-11	A-3	A-6		A-9	B-2	B-5	B-8	C-1			C-4	C-7	C-10	D-3	D-6		D-9	E-2	E-5	E-8	F-2					
J-5	J-8			K-1	K-4	K-7	K-10	L-3			L-6	L-9	A-1	A-4	A-7		A-10	B-3	B-6	B-9	C-2			C-5	C-8	D-1	D-4	D-7		D-10	E-3	E-6	E-9	F-3					
A-9	A-10							C-3							D-9			F-7			H-1																		
B-3	B-4							C-4							D-10			F-8			H-2																		
B-9	B-10							C-9							E-9			G-1			H-7																		
								C-10							E-10			G-2			H-8																		
								D-3							F-1			G-7			I-1																		
								D-4							F-2			G-8			I-2																		
C-5	C-6			C-9	C-10	D-1	D-2	D-5			D-8	D-9	D-10	E-1	E-2		E-5	E-6	F-1	F-2																			
C-7	C-8			D-3	D-4	D-7	D-8	D-11			D-14	D-15	D-18	E-3	E-4		E-7	E-8	F-3	F-4																			
EFKL															ABGH																								
ABGH															CDIJ																								
ABGH															CDIJ																								
CDIJ															EFKL																								
D-5	D-6			E-1	E-2	E-5	E-6	D-9						F-1	F-2		F-5	F-6	G-1	G-2																			
D-7	D-8			E-3	E-4	E-7	E-8	D-10						F-3	F-4		F-7	F-8	G-3	G-4																			
G-9	G-10			H-1	H-2	H-5	H-6	J-1			J-4	J-5	J-8	K-1	K-2		K-5	K-6	L-1	L-2																			
H-3	H-4			H-7	H-8	H-11	H-12	J-3			J-6	J-7	J-10	K-3	K-4		K-7	K-8	L-3	L-4																			
								J-4			J-7	J-8	J-11	K-4	K-5		K-8	K-9	L-4	L-5																			
CDIJ															EFKL																								
				D				C											F																				
ABGH															EFKL																								
L-1	L-2			C-7	A-1	A-7	B-1	B-7			C-1	I-1	D-1	D-7	E-7		E-1	F-5																					
L-3	L-4			C-8	A-2	A-8	B-2	B-8			C-2	I-2	D-2	D-8	E-8		E-2	F-6																					
L-5	L-6			A-5	A-6	B-5	B-6				G-9	D-9	D-6	E-5			F-3	F-4	G-3	G-4																			
L-11											G-10	D-10	D-6	E-6			F-4	F-10	G-4	G-6																			
GH/IJ															AB/CD																								
KL															EF																								
A															G																								
B															H																								
C															I																								
D															J																								
E1~5															K1~5																								
E6~10															K6~10																								
F															L																								

平成24年度				7月																		
	内 容	方 法	形 式	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17		
				月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水		
				第4期																		
初診科	実地・見学・介補等 予診（患者配当）	3名1組 終日2日	配 属	I-1 I-2 I-3	I-4 I-5 I-6	I-7 I-8 I-9	I-10 J-1 J-2	J-3 J-4 J-5			J-6 J-7 J-8	J-9 J-10	K-2 K-3 K-4	K-5 K-6 K-7	K-8 K-9 K-10				L-1 L-2 L-3	L-4 L-5 L-6		
SD診療室患者の カンファランス	カンファランス	3名1組	配 属	F-4 F-5 F-6	F-7 F-8 F-9	F-10 G-1 G-2	G-3 G-4 G-5	G-6 G-7 G-8			G-9 H-1	H-2 H-3 H-4	H-5 H-6 H-7 H-8	H-9 H-10						I-1 I-2 I-3	I-4 I-5 I-6	
臨床検査科	見学・介補	6名1組 1日 (月～金曜日)	配 属		A-7 A-8 B-1 B-2 B-7 B-8			C-1 C-2 C-7 C-8 D-1 D-2				D-7 D-8 E-1 E-2 E-7 E-8								F-5 F-6 G-5 G-6 H-5 H-6		
放射線科	見学・実技	4名1組 終日2日連続	配 属	G-9 G-10	H-1 H-2 H-3 H-4	H-1 H-2 H-3 H-4	H-5 H-6 H-7 H-8	H-5 H-6 H-7 H-8			H-9 H-10	H-9 H-10	J-1 J-2 J-3 J-4	J-1 J-2 J-3 J-4	I-5 I-6 I-7 I-8					I-5 I-6 I-7 I-8	I-9 I-10	
補綴科	実地・見学・介補等		配 属	CDIJ																		
保存科	実地・見学・介補等		配 属	EFKL																		
歯周科	実地・見学・介補等		配 属	EFKL																		
口腔外科	実地・見学・介補等 病棟見学会		配 属	ABGH																		
小児歯科	見学・介補	水・木・金・土 2～4名配属	配 属		J-1 J-2 J-3 J-4	J-5 J-6 J-7 J-8	J-9 J-10						K-1 K-2 K-3 K-4	K-5 K-6 K-7								
矯正科	症例分析・ 治療計画の立案	4名1組 終日2日	配 属		D-1 D-2 D-3 D-4	D-5 D-6 D-7 D-8	D-9 D-10	E-1 E-2 E-3 E-4	E-5 E-6 E-7 E-8			E-9 E-10	F-1 F-2 F-3 F-4	F-5 F-6 F-7 F-8	F-9 F-10	G-1 G-2 G-3 G-4					G-5 G-6 G-7 G-8	
再生歯科 顎関節咬合診療科 スポーツ健康歯科	見学・介補		アポイント																			
口腔インプラント科	見学		配属 アポイント 実習	ABGH																		
麻酔・全身管理科	見学	5～6名1組 1日 (火・木曜日)	アポイント	EFKL																		
特殊歯科	見学・介補・口頭試問	2名1組 1日 (月～金曜日)	配 属	A-5 A-6	B-5 B-6	C-5 C-6					D-5 D-6	E-5 E-6									F-3 F-4	
医 科	見学	3名1組 1日 (月～金曜日)	アポイント 希望選択																			
技工室		2名1組 (月～金曜日)		A-3 A-4	A-9 A-10	B-3 B-4	B-9 B-10	C-3 C-4			C-9 C-10	D-3 D-4	D-9 D-10	E-3 E-4	E-9 E-10							F-1 F-2
出欠席確認 午前 テーマ別講義1 (月～土 8:35 401) 午後 配属先 17:00 (土:13:00)	保存・補綴科 (4班)			GH/IJ																		
	3F再生歯科/スポーツ健康歯科 (2班)			KL																		
	口腔外科 1班			A																		
	歯周科 1班			B																		
	初診科 1班			C																		
	小児歯科 1班			D																		
	放射線科 1/2班			E1～5																		
特殊歯科 1/2班			E6～10																			
矯正歯科 1班			F																			

8月

18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火

第5期

L-7	L-10		A-2	A-5	A-8	B-1	B-4			B-7	B-10	C-3	C-6	C-9		D-5	D-8	E-1	E-4	E-7											F-1	F-4
L-8	L-11		A-3	A-6	A-9	B-2	B-5			B-8	C-1	C-4	C-7	C-10		D-6	D-9	E-2	E-5	E-8											F-2	F-5
L-9	A-1		A-4	A-7	A-10	B-3	B-6			B-9	C-2	C-5	C-8	D-1		D-7	D-10	E-3	E-6	E-9	E-10									F-3	F-6	
I-7	I-10		J-3	J-6	J-9	K-2	K-5			K-8	L-1	L-4	L-7	L-10		A-2	A-5	A-8	B-1	B-4										B-7	B-10	
I-8	J-1		J-4	J-7	J-10	K-3	K-6			K-9	L-2	L-5	L-8	L-11		A-3	A-6	A-9	B-2	B-5									B-8	C-1		
I-9	J-2		J-5	J-8	K-1	K-4	K-7			K-10	L-3	L-6	L-9	A-1		A-4	A-7	A-10	B-3	B-6									B-9	C-2		
																															I-5	I-6
																															K-5	K-6
																															L-5	L-6
I-9	J-6		J-6	J-1	J-1	J-5	J-5																							K-1	K-1	
I-10	J-7		J-7	J-2	J-2	J-9	J-9																							K-2	K-2	
	J-8		J-8	J-3	J-3	J-10	J-10																							K-3	K-3	
			J-4	J-4																										K-4	K-4	

EFKL

ABGH

ABGH

CDIJ

K-8					L-1	L-5																												
K-9					L-2	L-6											L-9	A-1																
K-10					L-3	L-7											L-10	A-2																
					L-4	L-8											L-11	A-3																
G-9	H-1	H-5			H-9	I-1	I-5	I-9	J-1																								J-5	
G-10	H-2	H-6			H-10	I-2	I-6	I-10	J-2																								J-6	
	H-3	H-7				I-3	I-7		J-3																								J-7	
	H-4	H-8				I-4	I-8		J-4																								J-8	

CDIJ

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

CDIJ

F-9					G-3	G-9	H-3	H-9																										
F-10					G-4	G-10	H-4	H-10																										
F-7					G-1	G-7	H-1	H-7																										
F-8					G-2	G-8	H-2	H-8																										

AB/CD

EF

G

H

I

J

K1~5

K6~10

L

平成24年度				8月																
	内 容	方 法	形 式	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	1	2	3	4	5	6
				水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
第5期																				
初診科	実地・見学・介補等 予診（患者配当）	3名1組 終日2日	配 属	F-7 F-8 F-9	F-10 G-1 G-2	G-3 G-4 G-5		G-6 G-7 G-8	G-9 G-10 H-1	H-2 H-3 H-4	H-5 H-6 H-7	H-8 H-9 H-10		D-2 D-3 D-4						
SD診療室患者の カンファランス	カンファランス	3名1組	配 属	C-3 C-4 C-5	C-6 C-7 C-8	C-9 C-10 D-1			D-5 D-6 D-7	D-8 D-9 D-10	E-1 E-2 E-3	E-4 E-5 E-6		E-7 E-8 E-9 E-10	F-1 F-2 F-3	F-4 F-5 F-6	F-7 F-8 F-9	F-10 G-1 G-2		
臨床検査科	見学・介補	6名1組 1日 (月～金曜日)	配 属						A-5 A-6 B-5 B-6 J-5 J-6						C-5 C-6 D-5 D-6 E-5 E-6					
放射線科	見 学 ・ 実 技	4名1組 終日2日連続	配 属	K-5 K-6 K-7 K-8	K-5 K-6 K-7 K-8									K-9 K-10	K-9 K-10	L-1 L-2 L-3 L-4	L-1 L-2 L-3 L-4			
補綴科	実地・見学・介補等		配 属	EFKL																
保存科	実地・見学・介補等		配 属	ABGH																
歯周科	実地・見学・介補等		配 属	ABGH																
口腔外科	実地・見学・介補等 病棟見学会		配 属	CDIJ																
小児歯科	見 学 ・ 介 補	水・木・金・土 2～4名配属	配 属	A-5 A-6 A-7 A-8	A-9 A-10															
矯正科	症例分析・ 治療計画の立案	4名1組 終日2日	配 属	J-9 J-10	K-1 K-2 K-3 K-4				K-5 K-6 K-7 K-8	K-9 K-10	L-1 L-2 L-3 L-4	L-5 L-6 L-7 L-8	L-9 L-10 L-11							
再生歯科 顎関節咬合診療科 スポーツ健康歯科	見 学 ・ 介 補		アポイント																	
口腔インプラント科	見 学		配属 アポイント 実習	CDIJ																
麻酔・全身管理科	見 学	5～6名1組 1日 (火・木曜日)	アポイント	CDIJ																
特殊歯科	見学・介補・口頭試問	2名1組 1日 (月～金曜日)	配 属	I-3 I-4	I-9 I-10				J-3 J-4	J-9 J-10	K-3 K-4	K-9 K-10			L-3 L-4	E-9 E-10	L-9 L-10	A-3 A-4		
医 科	見 学	3名1組 1日 (月～金曜日)	アポイント 希望選択																	
技工室		2名1組 (月～金曜日)		I-1 I-2	I-7 I-8			J-1 J-2		J-7 J-8	L-1 L-2			K-1 K-2	K-7 K-8	E-7 E-8	L-7 L-8	A-1 A-2		
午前 テーマ別講義1 (月～土 8:35 401) 午後 配属先 17:00 (土:13:00)	保存・補綴科 (4班)			AB/CD												GH/IJ				
	3F再生歯科/スポーツ健康歯科 (2班)			EF												KL				
	口腔外科	1班		G												A				
	歯周科	1班		H												B				
	初診科	1班		I												C				
	小児歯科	1班		J												D				
	放射線科	1/2班		K1～5												E1～5				
特殊歯科	1/2班		K6～10												E6～10					
矯正歯科	1班		L												F					

9月

7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月

第6期

		D-3	G-6	G-9	H-2	H-5				H-8	D-2												
		G-4	G-7	G-10	H-3	H-6				H-9	D-3												
		G-5	G-8	H-1	H-4	H-7				H-10	D-4												
		L-5	L-6	L-9	L-9																		
		L-6	L-6	L-10	L-10																		
		L-7	L-7	L-11	L-11																		
		L-8	L-8																				

ABGH

CDIJ

CDIJ

EFKL

A-1		A-5	A-9	B-1	B-5	B-9																	
A-2		A-6	A-10	B-2	B-6	B-10																	
A-3		A-7		B-3	B-7																		
A-4		A-8		B-4	B-8																		

EFKL

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

CDIJ

	A-9	B-3		B-9	C-3			C-9	D-3	D-9	E-3												
	A-10	B-4		B-10	C-4			C-10	D-4	D-10	E-4												
	A-7	B-1		B-7	C-1			C-7	D-1	D-7	E-1												
	A-8	B-2		B-8	C-2			C-8	D-2	D-8	E-2												

平成25年度 臨床実習 1(5月～9月)

診療科名：初診科

担当教員名：伊藤孝訓，多田充裕，内田貴之，青木伸一郎，遠藤弘康，岡本康裕

実施場所
初診科診療室
会議室

① ユニット課題

- 1) 医療面接
- 2) 臨床推論
- 3) 初期計画の立案

② 到達目標 (GIO)

問題志向型医療 (POS) に則って主要疾患や主要症状に対するプライマリー・ケアが実践できるようになるために、診断情報の収集に必要な診察手技およびコミュニケーション技法を習得するとともに、診断情報を収集・分析・評価し、問題解決するための計画の立案、そしてプライマリー・ケアへという診断プロセスを問題指向型診療録 (POMR) の作成を通して習得する。

③ 行動目標 (SBOs)

- 1) 初診患者において面接技法に則った医療面接を行える。
- 2) 正確で十分な病歴 (患者の社会的・経済的・心理的背景を含む) を聴取できる。
- 3) 得られた病歴を整理し、プロトコールに記載できる。
- 4) 歯科・医科的既往歴を聴取し、プロトコールに記載できる。
- 5) 初診患者において得られた所見から異常所見を抽出し、それを手がかりに仮説演繹的な診断思考を行うことができる。
- 6) 基本的な診断を施行し、得られた所見を整理してプロトコールに記載できる。
- 7) エックス線写真から、典型的な読像所見を抽出できる。
- 8) 口腔における主要疾患について診断できる。
- 9) 口腔における主要疾患について、基本的な治療方針 (初期計画) を立案できる。
- 10) 患者の現在の病態について、これまでの経過を踏まえて担当医に報告できる。

④ 学習方法 (LS)

- 1) 初診実習 (患者実習)
- 2) 予診実習 (患者実習)

⑤ 評価方法 (EV)

評価シートおよび実習時の行動観察により総合的に評価する。

⑥ 備考 (その他留意事項等)

- 1) 初診患者は応急処置を要することがあるので、適切な対応とやめる患者の助けになりたいという真摯な気持ちで実習を行うこと。
- 2) 実習中は患者の対応に配慮し、私語は慎むこと。
- 3) 臨床実習にふさわしい態度・身なり・服装で臨むこと。
- 4) 集合時間を厳守すること。
- 5) 不明な点は、学生同士で解決せず教員に確認すること。

平成25年度 臨床実習1 (5月～9月)

診療科名：臨床検査科
担当教員名：福本雅彦・深津晶・続橋治・布施恵・市村真奈・田中征宏
実施場所 校舎棟2階歯科臨床検査医学講座医局に集合する。その後担当医と第5会議室（注：5/10のみ他の場所で実施）へ移動する。
① ユニット課題 全身疾患を有する患者の歯科診療時に必要な検査項目を理解し、それらの検査を実施し、その検査結果を分析する。
② 到達目標 (GIO) 4年生までに学習した基礎知識をもとに、臨床の現場で患者によりよい歯科診療を実践するために必要な臨床検査の知識・技能・態度を習得できる。
③ 行動目標 (SBOs) 1. 歯科臨床における臨床検査の目的・概要を説明できる。 2. 外来で行われている検査方法を理解できる。 3. 臨床検査データの基本的分析が出来る。
④ 学習方法 (LS) 1. 実習方法 試験、実技、口頭試問、レポート 2. 実習内容 1) 試験 歯科診療に必要な臨床検査の目的・概要・基準値等について。 2) 実技 尿検査および採血（血液検査） 3) 口頭試問 実習中に担当医が出題する。実習を行うための知識だけでなく、検査項目、検査理由、基準値等について質問する。 4) レポート 各自に検査データの分析レポートを出題する。
⑤ 評価方法 (EV) 実習態度、試験、口頭試問、分析レポートの結果をふまえ、総合的に評価する。
⑥ 備考 (その他留意事項等) 1. 配属該当者は、臨床実習1の評価表、4年次で使用したノート・プリント、臨床実習1ガイダンス時に配布した資料、時計および筆記用具を持参すること。 2. 分析レポートは2週間以内に担当医に提出する。

平成25年度 臨床実習1 (5月～9月)

診療科名：放射線科
担当教員名：金田 隆，池島 厚，小椋一朗，佐々木悠介，今井浩之，徳永悟士，原 慶宜
実施場所：放射線科診療室
① ユニット課題 1) 口内法エックス線検査を行う。 2) パノラマエックス線検査を行う。 3) デジタルエックス線画像システムを操作する。 4) 頭部単純エックス線検査を見学する。 5) CT, MRIおよび超音波検査を見学する。 6) 口腔・顎顔面領域の画像診断を行う。
② 到達目標 (GIO) 歯科医師として顎顔面領域のエックス線撮影および画像診断ができるようになるために、各種画像検査法、口腔・顎顔面領域の正常像および病態像を修得する。
③ 行動目標 (SBOs) 1) 口内法エックス線検査ができる。 2) パノラマエックス線検査ができる。 3) デジタルエックス線画像システムの操作ができる。 4) 頭部単純エックス線検査が説明できる。 5) CT, MRIおよび超音波検査が説明できる。 6) 口腔・顎顔面領域の画像診断ができる。
④ 学習方法 (LS) 1. 放射線科配属 (2日間) 1) 放射線診療業務：当日の担当医の指導のもと、通常放射線診療に参加し、多くのエックス線写真を読影して、正常像および病態像を修得する。 2) 画像検査見学：顎顔面領域疾患に必要な頭部単純エックス線検査、CT, MRI, 超音波検査等を見学する。担当医により画像検査法や画像解剖等の口頭試問を受ける。 3) 撮影実習：相互実習およびマネキンを用いて、口内法エックス線撮影および画像処理を行い、担当医により評価を受ける。 2. 他科配属及び配当患者の撮影実習 1) 配当患者の撮影は担当学生の必須とする。 2) 他科配属中に撮影依頼があった場合、積極的に撮影実習を行うこと。 (撮影後の読影は2週間以内に必ず行うこと)
⑤ 評価方法 (EV) 1) 放射線科配属：口頭試問、実習態度にて行う。 2) 他科配属及び配当患者の撮影実習：エックス線撮影および読影所見にて評価する。 3) 実技 (80%) および実習態度 (20%) によって評価点とする。
⑥ 備考 (その他留意事項等) 1) 参考図書 (1) 歯科放射線学実習書 (日本大学松戸歯学部放射線学講座編) (2) Q&Aで学ぶ歯科放射線学：SBOs講義 (学建書院) (3) 歯科放射線診断 teaching file 第2版 (砂書房) (4) 画像でみる歯科放射線 (CDR) (わかば出版) 2) 実習上の諸注意 (1) 診療室では通常診療が行われているため、私語は慎むこと。 (2) 機器の取扱いには十分注意すること。

平成25年度 臨床実習1 (5月～9月)

診療科名：保存科(保存修復)
担当教員名：池見 宅司、平山 聡司、鈴木 英明、神谷 直孝、岡田 珠美、森 俊幸、岩井 啓寿、壹岐 宏二、関根 哲子、岡野 智子
実施場所 病院棟 2階 保存科診療室
① ユニット課題 保存修復治療の診療介助・見学・自験、およびそれらの症例に関連した口頭試問
② 到達目標 (GIO) 保存修復治療の診療介助と処置が適切に行えるようになるために、保存修復治療に必要な臨床的知識、技能および態度を身につける。
③ 行動目標 (SBOs) 1) 処置内容に沿った適切な術前・術後の説明ができる。 2) 硬組織疾患の検査ができる。 3) 象牙質知覚過敏の処置ができる。 4) MIを考慮した齲窩処置ができる。 5) コンポジットレジン修復の術式と使用器具について説明できる。 6) コンポジットレジン修復の形態修正と仕上げ研磨ができる。 7) 間接修復の種類、特徴、術式と使用器具について説明できる。 8) 修復前処置ができる。 9) 見学・介助した症例を理解し内容を詳細に説明できる。
④ 学習方法 (LS) 1) 修復処置の介助・見学を臨床実習1・2を通して72回以上(介助が50%以上)行う。 2) 見学症例に関連する口頭試問を臨床実習1期間中に2回行う。 3) 自験は臨床実習1・2を通して、処置前後の説明、硬組織疾患の検査、象牙質知覚過敏の処置、修復前処置(浸潤麻酔、歯肉排除、隔壁、ラバーダム防湿など)、コンポジットレジンの形態修正・研磨、う蝕検知液を併用した齲蝕処置、間接修復関連項目、単純窩洞のコンポジットレジン修復を各1回以上行う。 4) 臨床実習1期間中に保存科日直業務を4回以上行う。
⑤ 評価方法 (EV) 1) 見学・介助達成率：60% (臨床実習1期間中に40症例以上(介助50%以上)達成した場合) 2) 口頭試問成績：20% (臨床実習1期間中の口頭試問成績が合計20点の場合) 3) 自験達成率：20% (臨床実習1期間中に評価3点の自験を10症例以上達成した場合) 4) 上記1)～3)の合計が60点未満の場合、日直業務など臨床実習態度を加味する。 以上に対する総合的評価を臨床実習1の評価とする。
⑥ 備考(その他留意事項等) 1) 検印表は毎回必ず持参し、見学終了時に必要項目を記載し検印を受けること。 2) 日直業務は担当医の指示に従い、主として急患来院患者に対する診療介助を行う。 3) 見学者数は基本的に介助者1名、見学者1名の計2名とする。ただし、症例数が少ないものは担当医が許可した場合のみ例外として計4名まで見学可とする。 4) 口頭試問の成績不良者に対してはレポート等が課される場合がある。 5) 口頭試問を期限までに受けなかった者には別途課題を課す。

■修復症例の見学・介助と口頭試問に関して

- 1) 修復症例の見学は、臨床実習 1・2 を通して 72 回以上 となることを最低限の努力目標とする。見学は、介助者 1 名、見学者 1 名の計 2 名で行う。ただし、症例数が少ない間接修復法（メタルインレー・コンポジットレジンインレー、セラミックインレー）や生活歯のホワイトニングなどに限り、例外として介助者 1 名、見学者 2～3 名まで可とする。（見学人数は症例により担当医が決定する。）
- 2) 学習効果向上のため、見学症例のうち介助の割合が 50% 以上に達することを努力目標とする。
- 3) 見学終了時に、日付、カルテ番号、介助・見学の区別、および処置部位と詳細な処置内容を検印表に記入し担当医から検印を受けること。また、自学自習項目として*別紙「臨床実習 1・2 保存修復学 SBOs 一覧」から見学症例と関連する項目を選択し「保存修復 SBOs ノート」ノートに記載すること。（*別紙および「保存修復 SBOs ノート」に関しては 7) 参照）
- 4) 口頭試問は臨床実習 1・2 期間中にそれぞれ 2 回、見学症例の内容 に関して保存修復学講座の医員（重複は不可）と行う。特定医員への集中防止のために口頭試問アポイント台帳（2 階総合受付に常備）で管理する。また、臨床実習 1 の口頭試問 2 回目は必ず臨床実習指導医（後日連絡）と行うこと。
- 5) 見学数が 16 症例に達するごとに口頭試問のアポイントを取ることが可能になる。検印表に記載されているアポイント期限を過ぎた場合は該当期間の口頭試問受験資格を喪失する（口頭試問評価は 0 点）ため、見学は余裕を持って行い、口頭試問のアポイントは早めにとるよう留意すること。
- 6) 臨床実習 1 において口頭試問を 1 回でも受けない者は、「保存修復 SBOs ノート」の全項目を記載し、口頭試問アポイント台帳が空欄の医員に提出し評価を受けること（評価は 5 点以下となる）。
- 7) 「臨床実習 1・2 保存修復学 SBOs 一覧」は、国家試験合格に向けて、知っておくべき学習到達目標を全 50 項目として列挙したものである。
 - ①臨床実習 1 開始時に「保存修復 SBOs ノート」を作成すること。SBOs 一覧を切り抜き、A4 または B5 ノートの最初のページに貼付け、1 ページ 1 課題として番号順に記載していくこと。記載は鉛筆やボールペンによる直筆のみとし、印刷した文書の貼り付けやコピーは認めない。
 - ②担当患者など治療内容が事前にわかる場合、関連する SBOs を予習しノートに記載しておくこと。
 - ③SBOs に関する予習・復習事項などの内容や、症例見学中に担当医から課された質問に対する解答や疑問はすべて、この「保存修復 SBOs ノート」に記載していくこと。
 - ④SBOs 一覧表右側のチェックボックスは、臨床で遭遇した症例のチェックや、自己の学習進捗状況の目安などに使用すること。
 - ⑤臨床で遭遇し難い SBOs に関しては、出来るだけ自己学習を行い、担当医とディスカッションして知識の深化を図ることが望ましい。

■修復処置の自験に関して

- 1) 自験は基本的にSD診療室、担当患者または日直配属時の急患患者で実施すること。いつでも自験に望めるように事前学習しておくこと。
- 2) 臨床実習 1・2 を通して、自験評価表に記載の項目を最低 1 回以上、単純窩洞のコンポジットレジン修復を 1 回以上行うこと。なお、症例数の少ない間接修復の自験に関しては努力目標とする。
- 3) 自験は 3 段階評価で行う。評価が 1 の場合は再度同じ項目の自験を行うこと。
- 4) 自験のレベルは容易なものから難易度の高いものへ移行することが望ましい。臨床実習 1・2 を通して単純窩洞のコンポジットレジン修復を行えるようになることが最低限の到達目標となる。

■検印表記入例

※口頭試問は見学症例に関して行うため、毎回必ず部位と処置内容を詳細に記載すること。

悪い例

日付	カルテ No.	部位・処置内容 (詳細に記載すること)	介助・見学	検印
1 5/10	201205544	7 診査	介助 見学	
2 5/17	201011566	6 CR	介助 見学	
3 5/20	200702819	6 仮封	介助 見学	

良い例

日付	カルテ No.	部位・処置内容 (詳細に記載すること)	介助・見学	検印
1 5/10	201205544	7 咬合面裂溝部齲蝕検査 (ダイアグノゼント使用)	介助 見学	
2 5/17	201011566	6 CR (2級 MO 窩洞、コンタクトマトリックス使用)	介助 見学	
3 5/20	200702819	6 イノレー脱離、う窩処置後 GIC 仮封	介助 見学	

平成25年度 臨床実習1 (5月～9月)

診療科名：保存科（歯内療法）
担当教員名：松島 潔、辻本恭久、川島 正、岡部 達、神尾直人、室町幸一郎、 和田陽子、諸橋利朗、安達泰佑、小峯千明
実施場所：病院診療室
① ユニット課題：歯内療法処置を実施する。
② 到達目標（GIO）：歯内療法処置を実施するために、臨床に必要な知識、技能および態度を修得する。
③ 行動目標（SBOs）： (1) 問診および各種検査ができる。 (2) 主訴および必要な検査から処置方針の決定ができる。 (3) 歯内療法処置に必要な器材、薬剤が準備できる。 (4) 適切な診療介補ができる。 (5) ラバーダム防湿法が実施できる。 (6) 各種歯科用セメントが使用できる。 (7) 仮封ができる。
④ 学習方法（LS）： 1) 実施方法 診療介補とそれに関連する実技実習 2) 実施内容 ①歯内処置の見学・介補を30回以上行う。 ②①が達成できたら評価表の見学・介補30個終了印をもらい、 評価表の実施項目を実施する。 ③臨床見学については2名までとする。（介補者は除く）
⑤ 評価方法（EV） ①検印表の見学・介補ならびに評価表の検印数 ②臨床実習態度
⑥ 備 考（その他留意事項等）

平成25年度 臨床実習1 (5月～9月)

診療科名：歯周科(予防管理科)

担当教員名：担当教員名：小方頼昌、吉野祥一、中山洋平、高井英樹、目澤 優、鈴木桃子、大橋頭二郎、岡野千春、武井美佑紀、廣松勇樹、豊嶋 泉、井上英子、蔦森麻衣

実施場所：付属病院歯周科診療室

① ユニット課題：歯周治療における介補・実技の実施および実技試験

② 到達目標 (GIO)：実際の臨床を通じて、歯周治療を実施するための技能、態度を習得し、総合的に歯周治療を理解する。

③ 行動目標 (SBOs) 1) 問診ができる。2) 歯垢染色ができる。3) プラークコントロールレコードの記入ができる。4) ブラッシング指導ができる。5) スケーリング・ルートプレーニングが実施できる。6) 歯週外科治療の種類の説明ができる。7) 歯週外科治療で使用する器具の名称と使用法が説明できる。8) サポートィブペリオドンタルセラピー (SPT) で行う項目について説明できる。

④ 学習方法 (LS)

1. 実習方法：診療見学・診療介補および実技、歯周外科手術の見学、症例検討会 (CPC)、口頭試問、日直

2. 実習内容：

1) 必修症例と症例数

〈見学、介補および実技〉

実習方法と実習項目の表を参照。症例数については60症例とする(これ以外に、歯周外科治療を3症例以上見学および介補を行う。)各項目の必須症例の見学および介補を行い、臨床実習評価として担当医に評価をもらう。

〈症例検討会：CPC〉

配属期間に関わらず、班ごとに症例検討会に参加する。CPCは、原則として毎週金曜日、午後6時より第4実習準備室にて行うので、班ごとに決められた日時(別紙配布)に参加すること。正当な理由で参加できない場合には、事前にその旨を申し出て予備日に参加することを認める。

〈歯周治療学SBOsノート〉

CPCに参加した学生は担当医から課題を受け、歯周治療学SBOsノートを作成し口頭試問を受ける。担当医は院内番号に従って定める(下記参照)。口頭試問の結果が適切な場合は検印を受ける。1；大橋 2；高井 3；高井 4；鈴木 5；鈴木 6；目澤 7；吉野 8；岡野 9；中山 10；武井 11；廣松 12；豊嶋

〈歯周外科治療の見学〉

歯周外科治療の見学者は原則として、1症例について5名までとする(担当学生は含まない)。ただし、担当学生がいない場合に限り介補担当者として1名の追加を認める。歯周外科治療の見学を希望する学生はオペ台帳に学生番号、氏名を記入し担当医の検印をただちに受けること(検印を受けてない学生はオペの見学を無効とする)。また、正当な理由で見学できなくなった場合はその旨を担当医に連絡し検印を受け、2重線(修正液不可)で氏名が確認できるように訂正すること。歯周外科治療の見学を行った学生は、その症例内容に応じたレポートを作成し、レポート提出に際して口頭試問を受ける。レポート、口頭試問の結果が適切な場合は検印を受ける。

3. 選択症例と症例数

〈見学、介補および実技〉

歯周科における実習は原則的に歯周科配当患者に対する介補および実技をもって評価する。配当患者については各班ごとに担当医を定めるので下記の担当医から各自2名以上の配当を受けること。

担当医一覧：A；小方、廣松 B；小方、大橋 C；小方、鈴木 D；小方 E；小方 F；小方、岡野 G；小方、中山 H；小方、高井 I；小方、武井 J；小方、豊嶋 K；小方、目澤 L；小方、吉野

⑤ 評価方法

原則として診療室における指導責任者、担当医による指導に従い、見学・介補および実技を行うが、症例内容については必要に応じて随時、口頭試問、レポートを課す。歯周科における評価は、配属期間中に限らず評価する。チーム診療の配当、歯周科配当に対する介補・実習は配属期間中に限らず対象とする。ただし、見学については配属期間中に限って認めるが、歯周外科治療の見学および介補は、配属期間に限らず認める。

〈評価基準〉

- 1) 目標症例・選択症例(65症例の達成率、外科治療がある場合、準備、見学、介補など、それ以外に歯周外科治療を4症例以上見学および介補を行う)
- 2) 歯周科の日直としての業務に対する評価
- 3) CPCの評価
- 4) 口頭試問、レポートの評価
- 5) 介補および実技(歯周精密検査、ブラッシング指導、スケーリング・ルートプレーニング、PMTCの手技の評価)

以上に対する総合的評価をセメスターの評価とする。

⑥ 備 考

(その他留意事項等) 実習中の諸注意

1) 症例の評価は、見学、介補および実技後にその内容を理解しているかをチェックしてから検印を行う。

2) 期間中は、日直または指導責任者、担当医の指示に従う。また、班ごとに指導責任者の指示に従い、担当医と密接に連絡を取りながら、実習が円滑に行えるように計画的に実習を遂行すること。実習実施日の前日までに必ず担当医とアポイントを取り、アポイント帳に検印を受けること。また、当日の準備などについて、担当医の指示を仰ぐこと。担当医、指導責任者の許可なく、診療室に不在の学生は、実習を放棄したものとみなす。万が一欠席する場合は、担当医の許可を得て適切な指示を仰ぐこと。

3) 歯周科の評価表は、毎日必ず持参し、評価表の記入については、見学、介補および実技表について、症例ごとに日付、該当する細項目名および番号を記入し検印を受けること。(実技表に検印を受ける場合、見学、介補表には同一診療の検印を受けられないので注意すること。

4) 歯周科配属期間中は、各3～5名の日直を設ける(別紙参照のこと)。歯周科日直の義務は以下の事とし、やむを得ない理由で日直が行えない場合は事前に必ず代理を立て、その旨を日直担当医に報告すること。

- (1) 急患に対する準備・介補
- (2) 教授の診療補助などの歯周科における診療が円滑に進むように担当医に従う。
- (3) 日直時の見学、介補および実技は日直印のみとする。

平成 25 年度 臨床実習 1・2 歯周科 症例見学・介補・口頭試問について

■症例見学・介補・口頭試問について

- 1) 歯周症例の見学は、臨床実習 1 にて 60 症例以上、臨床実習 2 にて 60 症例以上となる事を目標とする。
- 2) 見学・介補 30 症例毎に、歯周治療学講座の教育医員とアポイントをとり、別紙「臨床実習 1・2 歯周治療学 SBOs 1～20」から課題を選んでもらい、口頭試問を 1 回受けること。口頭試問はそれぞれ実施期限が決まっており、期限が過ぎた場合は口頭試問が受けられなくなるので注意すること。口頭試問の成績不良者と期限までに受けられなかったものは別途レポートをかす。
- 3) 4 回の口頭試問はすべて異なる医員と行うこと。重複は認めない。また、特定の医員への集中を防止するために口頭試問アポイント台帳で管理する。
- 4) 別紙「臨床実習 1・2 歯周治療学 SBOs21～27」の口頭試問は CPC 終了後、臨床実習 1 では 4 題、臨床実習 2 では 3 題を選んでもらい口頭試問を受けること。口頭試問はそれぞれ教育医員が定めた期限を過ぎた場合は口頭試問が受けられなくなるので注意すること。口頭試問の成績不良者と期限までに受けられなかったものは別途レポートをかす。
- 5) 別紙「臨床実習 1・2 歯周治療学 SBOs 一覧」は、国家試験合格に向けて、知っておかなければならない学習到達目標を列挙したものである。
 - ①臨床実習 1 開始時に「歯周治療学 SBOs ノート」を作成し、この SBOs をノートの最初のページに記載する。
 - ②SBOs に関する予習・復習事項など自己学習した内容や、口頭試問前後に担当医から出された課題やレポートはすべて、この「歯周治療学 SBOs ノート」に記載すること。
 - ③右側のチェックボックスは、教育医員からの口頭試問に合格した時にチェックしてもらうこと。

平成25年度 臨床実習1 (5月～9月)

診療科名：補綴科（クラウンブリッジ）
担当教員名：*會田雅啓，*小林 平，*若見昌信，*大村祐史，*田中孝明，*後藤治彦，齊藤美佳，青木直子，金子珠美，内堀聡史，*河相安彦，*成田紀之，*飯島守雄，*伊藤誠康，*大久保昌和，*木本 統，*中田浩史，*石井智浩，*神谷和伸，*矢崎貴啓，池口信之，井上正安，伊藤奈那，小出恭代，佐藤貴信，末光弘宣，中村耕実，義隆淑子，植木克昌 （*：指導教員）
実施場所：病院診療室，院内技工室，職員技工室，医員用技工室
① ユニット課題 担当患者または見学・介補を行った患者におけるクラウンブリッジ製作の治療過程において，その過程を理解し，治療に必要な知識と態度，技能を習得する。
② 到達目標（GI0） クラウン・ブリッジの診査・診断，治療計画，術式および予後について介補，見学，実技，技工を通じ理解し，その基本的臨床能力を身につける。
③ 行動目標（SBOs） 1) クラウンブリッジの診査項目を理解し行うことができる。 2) 予備印象を採得することができる。 3) クラウンブリッジの設計を含めた治療計画を立案することができる。 4) 支台築造の目的と方法について述べるができる。 5) 歯肉圧排の目的を理解し行うことができる。 6) クラウンおよびブリッジの支台歯形成について述べるができる。 7) 最終印象の方法を述べるができる。 8) プロビジョナルレストレーションの作製および仮着の要件について述べるができる。 9) 咬合支持に応じた咬合採得を理解し行うことができる。 10) フェイスボウトランスファーの意義と操作方法を理解し述べるができる。 11) シェードテイキングの要点について述べるができる。 12) 咬合器の目的と取り扱いについて述べるができる。 13) クラウンブリッジ試適時における診査項目を理解することができる。 14) クラウンブリッジの仮着を理解し行うことができる。 15) クラウンブリッジの装着について述べるができる。 16) クラウンブリッジの術後管理について指導ができる。 17) 装着後のトラブルおよび変化の原因と対処法について述べるができる。
④ 学習方法（LS） 担当患者や日直もしくは見学患者の診療での介補・見学を主体として担当教員との2～3人でのスモールグループによる実習を行う。
⑤ 評価方法（EV） 見学・介補・実技について検印数および評価点数により採点を行い，実習態度等の内容も含め総合的に判断して最終評価とする。①表（担当患者）および実施の点数は3点，②表（見学症例）の点数は1点とする。①表（担当患者）は介補・見学を終了した時点でカルテ番号と日付を記載し，2週間以内に進行表に治療内容を記載し， 口頭試問を受け ，担当医の検印を受けたものとする。期日を過ぎたものおよび記載事項が不備，口頭試問で理解が得られていない者は評価表②に検印を行う。実技を行ったケースに関しては口頭試問を行い，①もしくは②表と③表に検印を受ける。 見学・実技の*は必須項目とし、見学・実技のどちらかで検印を受けること。
⑥ 備 考（その他留意事項等） 事前学習の上で見学・介補を行い，不明な点は事後補うこと。 見学・介補における検印は担当教員または併印で可。実技は指導教員の検印のみ有効。指導教員は*の教員とする。 実技においては途中で医員への交代を促す場合がある。別途必要な評価表を配布する。

平成25年度 臨床実習1・2 (5月～3月)

診療科名：補綴科（総義歯）
担当教員名：會田雅啓・河相安彦・成田紀之・小林 平・飯島守雄・大村祐史・若見昌信・田中孝明・伊藤誠康・大久保昌和・木本 統・中田浩史・石井智浩・後藤治彦・神谷和伸・矢崎貴啓・池口伸之・井上正安・菅野京子・小出恭代・佐藤貴信・末光弘宣・中村耕実・義隆淑子・伊藤菜那・植木克昌・斉藤美佳・加藤仁美・青木直子・金子珠美・内堀聡史（順不同）
実施場所 附属病院補綴科診療室，院内技工室，職員技工室，医員用技工室，Web Class
① ユニット課題 Web Classでの自学自習と総義歯配当症例および見学症例を統合し総義歯治療の基本を学ぶ。
② 到達目標（GIO） 総義歯の診査・診断，総義歯製作および予後調整の基礎知識と基本的技能を身につける。
③ 行動目標（SBOs） 1) 旧義歯の診査・診断項目を説明し実施できる。 2) 予備印象を採得することができる。 3) 模型上の解剖学的ランドマークについて説明できる。 4) 床外形を推定することができる。 5) 筋圧形成の目的と方法を説明し部分的に行える。 6) 最終印象の目的と方法を説明できる。 7) ボクシング・作業模型の要件を説明し作製できる。 8) 適切な咬合床の形態を説明し作製できる。 9) アーラインと床後縁との関連を理解し設定できる。 10) 顎の対向関係位の設定の術式と背景を説明できる。 11) フェイスボウトランスファーの意義と術式を説明できる。 12) ゴシックアーチの意義と術式を説明し解釈を行える。 13) 人工歯の選択基準を理解し，人工歯選択を行える。 14) 両側性平衡咬合と片側性平衡咬合を説明できる。 15) 仮床義歯試適時における診査項目を説明できる。 16) 完成義歯装着時の診査項目を説明できる。 17) 総義歯装着時の患者指導を行うことができる。 18) 総義歯装着後の調整を行うことができる。 19) 総義歯治療全体の過程と術式を説明できる。
④ 学習方法（LS） Step 1. 3年次のWeb classの問題を解きCBTレベルの基礎知識を再確認する。 Step 2. CBTレベルの基礎知識がない者は自学自習と教員への質問で解決を試みる。 Step 3. 院内実習を通じ基礎知識と臨床を統合し，知識レベルをプレカンファランスに対処できるレベルへ向上させる。 Step 4. プレカンファランスでの学習で総義歯治療を包括的に理解し，臨床実習3のカンファランスに対処できるようにする。 Step 5. Web class試験に対する学習で国家試験に対応できるようにする。
⑤ 評価方法（EV） 1. Web classでの試験（日程は後日連絡する） 2. 配当症例治療時の出席印および実技評価 3. プレカンファランスの評価
⑥ 備 考（その他留意事項等） 1. 評価は臨床実習1および2を通じて行う。 2. 臨床実習1・2の期間中に総義歯患者を1班の前後半に各1名配当する。 3. 配当患者による実習は患者さんの好意によって行われ，総義歯実習の主要部であるため欠席は厳禁とする。 4. 配当症例では異なる実技5項目を実施することをミニウムリクワイアメントとする。 5. 実技は指導医が診療当日に担当学生を指名し実施するので，学生は当日行う診療の実技評価表をもとに自学自習を行った上で診療に望むこと。 6. 治療前後にはWeb classや参考図書を利用し自学自習を行うこと。 7. Web Class試験は臨床実習2終了前に行う（日程は後日連絡する）。 8. 参考図書 1) 無歯顎補綴治療学 医歯薬出版、2) 図説無歯顎補綴学 -理論から装着後の問題解決まで-学建書院

平成25年度 臨床実習1 (5月～9月)

診療科名：補綴科（局部床義歯）

担当教員名：會田雅啓・河相安彦・成田紀之・小林 平・飯島守雄・大村祐史・若見昌信・田中孝明・伊藤誠康・大久保昌和・木本 統・中田浩史・石井智浩・後藤治彦・神谷和伸・矢崎貴啓・池口伸之・井上正安・菅野京子・小出恭代・佐藤貴信・末光弘宣・中村耕実・義隆淑子・伊藤菜那・植木克昌・斉藤美佳・加藤仁美・青木直子・金子珠美・内堀聡史（順不同）

実施場所：附属病院診療室、院内技工室、職員技工室、医員用技工室

① ユニット課題：診療に必要な基本的な知識を習得する。相互実習によりチェックバイトの採得の技能と半調節性咬合器の顎路調整を行う技能を習得する。SGDによる症例検討を通して診査・診断・治療計画の立案までの能力を獲得する。配当患者または見学に就いた患者における局部床義歯製作の治療過程において、見学・介補および実技を行い、局部床義歯製作の過程を理解し、治療法を習得する。

② 到達目標（GIO）：患者個々に適した局部床義歯を作製する基本的臨床能力を身につけるために必要な診査・診断、術式および予後に関する知識、技能および態度を習得する。

③ 行動目標（SBOs）：

- ① 補綴歯科治療に必要な器具・器材を適切に使用することができる。
- ② 補綴歯科治療に必要な検査機器を適切に使用することができる。
- ③ 可撤性義歯の製作過程を説明できる。
- ④ 可撤性義歯の支持機構、把持機構および維持機構を説明できる。
- ⑤ 可撤性義歯の構成要素を説明できる。
- ⑥ 義歯の設計を適切にできる。
- ⑦ 口腔内診察および検査結果に基づいて義歯の治療計画の立案が適切にできる。（予備印象と研究模型の製作を含む）
- ⑧ 治療計画に基づいて適切な前処置（マウスプレパレーション）を行なうことができる。
- ⑨ 印象採得の種類と方法を説明できる。
- ⑩ 筋圧形成を適切に実施できる。
- ⑪ 印象採得を適切に行なうことができる。（個人トレーの製作を含む）
- ⑫ 可撤性義歯の咬合様式とその意義を説明できる。
- ⑬ 咬合採得する下顎位と咬合採得法を説明できる。
- ⑭ 咬合採得を適切に行なうことができる。
- ⑮ 咬合器を適切に調整することができる。
- ⑯ 人工歯を適切に選択することができる。
- ⑰ 仮床義歯試適時の診査を適切に行なうことができる。
- ⑱ 完成した義歯を患者に適切に装着することができる。
- ⑲ 患者に対して義歯使用上の注意点について説明できる。
- ⑳ 義歯装着後の調整を適切に行なうことができる。
- ㉑ 義歯装着後の定期健診を実施することができる。
- ㉒ 義歯装着後の修理、再適合を適切に行なうことができる。
- ㉓ 患者の苦痛に配慮した診療介補および処置ができる。
- ㉔ リングクラスプのワックスアップができる。

④ 学習方法 (LS) : ③④⑤⑨⑫⑬ 臨床実習 1 期間中に自習
⑥⑦ 臨床実習 1 期間中の補綴配属中に SGD を行う (学生セミナー室)
⑪⑭⑮ 臨床実習 1 期間中の補綴配属中に相互実習 (臨床実習室)
①②⑥⑦⑧⑩⑪⑭⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓ 臨床実習 1・2 期間中に見学・介補・実技

⑤ 評価方法 (EV) : ③④⑤⑨⑫⑬についてはWebClassによる試験。見学・介補については口頭試問による評価を行う。実技については実技評価表による評価を行う。SGD についてはレポートにより評価する。

⑥ 備 考 (その他留意事項等) : SGD と相互実習についての詳細は別途通知する。リングクラスプのワックスアップの実技については別途通知する。

平成25年度 臨床実習1 (5月～9月)

診療科名：口腔外科
担当教員名：秋元芳明、近藤壽郎、西村均、田中茂男、池谷美和、伊藤耕、原正浩、武田祥人、藤本陽子、石上大輔、須藤亜紀子、山口桜子、田島秀人、羽田紗綾、平川剛、横川真千代、石原芳紀、松本健司、高橋康輔、岩井 聡、河島 睦、谷野 弦、萩原美緒、深田朱里、飯塚普子、植木宏之
実施場所：診療室、手術室、病棟
<p>① ユニット課題口腔外科領域における的確な処置（抜歯・難抜歯・埋伏歯抜歯・外来小手術）を行うために必要な基本的知識、技能、態度を習得する。 臨床実習1、2を通して実技症例（問診、口腔内消毒、抜糸、縫合、処方箋等）を所定回数実施する。 臨床実習1の配属期間中には、器具準備症例10例以上、抜歯の介補症例10例以上、外来小手術の介補・見学症例5例以上を行う。 埋伏抜歯介補症例より2例をレポート課題とし担当教員に提出する。</p>
<p>② 到達目標（GIO）口腔外科領域における的確な処置（抜歯・難抜歯・埋伏歯抜歯・外来小手術）を行うために必要な基本的知識、技能、態度を習得する。</p>
<p>③ 行動目標（SB0s）①口腔外科外来診療の流れを理解し、患者に配慮した行動が出来る。 ②口腔外科外来小手術で使用する器材の使用方法が説明できる。 ③適切な手指消毒と滅菌グローブの装着ができる。 ④適切な口腔内消毒が実施できる。 ⑤各種局所麻酔法を理解し、浸潤麻酔を実施することができる。 ⑥口腔外科領域における的確な処置に必要な器材を準備することができる。 ⑦処置前・処置後に患者へ注意事項の説明ができる。 ⑧処置前に患者のバイタル測定ができる。 ⑨処置の介補ができる。 ⑩埋伏抜歯の術式を説明できる。 ⑪抜糸を実施できる。 ⑫縫合を実施できる。</p>
<p>④ 学習方法（LS）②講義 ①③～⑧について相互実習 ⑪⑫について模型実習 ①③④⑥～⑨について患者実習 ⑩について自習で行う。</p>
<p>⑤ 評価方法（EV）②について平常試験 ①③～⑧について観察記録 ⑪⑫について観察記録 ①③④⑥～⑨について観察記録 ⑩についてレポートで評価する</p>
<p>⑥ 備 考（その他留意事項等）実技症例、準備症例の達成度、レポートの内容を総合的に評価する。抜歯介補症例のうち2症例は、レポートを担当教員に提出する。その他の症例症例用紙に関しては、評価の加点とする。詳細については、所定用紙にて確認のこと。</p>

平成25年度 臨床実習1 (5月～9月)

診療科名：矯正科

担当教員名：葛西一貴、今村隆一、山口 大、小野修一、五関たけみ、榎本 豊、斎藤勝彦、弘松美紀、根岸慎一、徳永理利、小堀理恵、石井さおり

実施場所

- 1) 分析・治療方針の立案（混合歯列期矯正症例）：第3・第3B会議室、学生セミナー室
- 2) 症例見学・介助および口腔内診査：矯正科診療室

① ユニット課題1) 混合歯列期症例について分析・治療方針の立案 2) 矯正治療の症例見学・介助および口腔内診査 3) 口頭試問・レポート作成

② 到達目標 (GIO) 基本的歯科矯正治療を実践できるようになるために必要な知識・技能および態度を習得する。

③行動目標 (SBOs)

SBOs: 1) 模型分析が実施できる。2) セファログラム分析が実施できる。3) 模型・セファログラム分析から診断できる。4) 診断から治療計画を立案できる。5) 患者や保護者に配慮した診察・診査ができる。

④ 学習方法 (LS)

A 分析・治療方針の立案

- 1) 模型分析：歯列長径・幅径および歯槽基底長径・幅径を計測しポリゴン図表に記載する。
- 2) セファログラム分析：トレースから必要な計測を行いポリゴン図表を完成する。
- 3) 診断・治療方針の立案から治療に用いる矯正装置を選択、治療による変化を検討する。

B 症例見学：指定患者の矯正治療について臨床実習1期間に見学・介助を4回以上（1回以上は介助）を行い、見学内容についてのレポート作成を行う。レポート提出は2週間以内とする。

C 臨床実習1、2の期間中（通年）に1回の精密検査の見学・介助および口腔内診査を行う。

⑤ 評価方法

- 1) 分析・治療方針の立案 (50%)：評価シートにより評価を行う。
- 2) 症例見学 (40%)：臨床実習1期間に見学・介助を4回以上（1回以上は介助）・レポート作成および口頭試問を行い評価を行う。
- 3) 精密検査の見学・介助 (10%) 臨床実習1、2の期間中（通年）に1回の精密検査の見学・介助および口腔内診査を行い評価を行う。

⑥ 備考 (その他留意事項等)

矯正治療の見学・介補の際には、患者様に不快な思いをさせないように十分に配慮し、言動に気を配ること。

平成25年度 臨床実習1 (5月～9月)

診療科名：小児歯科
担当教員名：清水邦彦、清水武彦、荒井清司、小川 京、伊藤奈々、小尾友美、折野大輔、平井則光、青木 望 砂田怜子 山本晴子 伊藤龍朗
実施場所：小児歯科診療室
① ユニット課題 小児期の歯科診療を理解する
② 到達目標 (GIO) 小児の歯科治療および口腔疾患の予防を行うために基礎的な知識、技能、態度を身につける。
③ 行動目標 (SBOs) 小児の齲蝕治療を理解する。 小児の抜歯および外傷について理解する。 小児の保険について理解する。 小児の対応について理解する。 小児の予防処置を理解し、行う。 小児の定期健診を理解する。 小児の症例検討を行う。
④ 学習方法 (LS) 診療の見学および介補を行う。また担当した症例のディスカッションを行う。
⑤ 評価方法 (EV) 別紙の見学・評価表に記載した事項に従い評価する (85%) 必要に応じて口頭試問およびレポートを課す (15%)
⑥ 備 考 (その他留意事項等) 小児患児は、ほとんどの場合、保護者と同伴して来院する。保護者は自分の子供がどのような院内生に診られるのか多少の不安を抱いている。どの世代の保護者にも安心して子供を任せられるような院内生でなくてはならない。

平成25年度 臨床実習1 (5月～9月)

診療科名：麻酔・全身管理科
担当教員名：渋谷 敏、山口秀紀、石橋 肇、卯田昭夫、下坂典立、鈴木正敏、峯村麻由 岡部靖子、石川義継、片岡尚一
実施場所 外来および全身管理室または手術室
① ユニット課題 全身麻酔
② 到達目標 (GIO) 安全な歯科治療を施行するために、全身麻酔法の基本的な知識と技術を習得する。
③ 行動目標 (SBOs) 1. 医療面接をはじめとする各種データから、術前のリスク判定ができる。 2. 基本的なバイタルサインの測定ができる。 3. 全身麻酔の流れについて説明することができる。 4. 全身麻酔に用いられる薬剤について述べるができる。
④ 学習方法 (LS) 全身麻酔症例の術前診察および術中見学。
⑤ 評価方法 (EV) 見学態度、レポート内容、口頭試問および評価表により、総合的に評価する。 追加の見学実習を希望する場合は選択症例とし、評価に値すれば成績に加点とする。
⑥ 備 考 (その他留意事項等) ・実習は配属期間中に行う。実習日は術前診察日と火または木曜日の手術日の2日間の 見学で、1症例につき見学者数は2名までを原則とする。 ・臨床実習1で全身麻酔または全身管理のどちらか一方の見学を必須とする。 ・症例の配当は毎週木曜日17時以降に401教室で行う。 ・術前診察見学日までに見学予定者全員がそろって、医局前に集合し、集合時間や症例 内容、注意事項について説明、伝達を受けること。 ・選択症例、その他を希望する院内生は医局員に申し出ること。

平成25年度 臨床実習1 (5月～9月)

診療科名：特殊歯科
担当教員名：野本たかと、伊藤政之、梅澤幸司、林佐智代、田中陽子、和井田暢子 水野貴誠、伊藤梓、猪俣英理、地主知世、西山めい、秋山真帆、村上絵梨
実施場所 特殊歯科診療室
① ユニット課題 見学により障害者歯科診療で重要となる障害についての理解を深めるとともに診療介補を体験する。また、理解の確認とさらなる知識の習得のため口頭試問と課題レポートを課す。
② 到達目標 (GIO) GIO: 歯科医療の対象としての障害者の存在を知り、その臨床の実際を体験することを通じてスペシャルニーズがある人を患者として受け入れることができるような歯科医師としての知識・態度を修得する。
③ 行動目標 (SBOs) SBOs: 1) 診療の流れを理解して説明することができる。 2) スペシャルニーズがある人の身体的、精神的および心理的特徴を説明できる。 3) 障害者歯科治療における行動調整法を観察し、説明できる。 4) 口腔内診査の介補を実践できる。
④ 学習方法 (LS) 1. 実習方法 診療見学、口腔内診査の介補、口頭試問、レポート 2. 実習内容 1) 症例と症例数 (minimum requirement) (1) 〈必修症例〉 ・口腔内診査の介補症例 : 症例数 1 ・実習内容 口腔内診査の介補 (2) 〈見学症例〉 ・治療症例 : 症例数 8 ・実習内容 見学 2) 口頭試問 口頭試問は原則として、口腔内診査の介補症例、治療症例に関連した事項、ポリクリ時の課題レポートより各指導医が出題する。 3) レポート レポート課題は口頭試問時に各指導医が決定し出題する。また、レポートは原則、口頭試問終了1週間後の正午までに特殊歯科内の提出棚に提出する。
⑤ 評価方法 (EV) 実習態度、評価表記載の症例数・内容、口頭試問、課題レポート

⑥ 備考(その他留意事項等)

1. 手続き

- 1) 実習当日までに、障害や行動調整手段等について事前の自習を行っておく。
- 2) 実習当日は9:30までに診療室へ集合する。
- 3) 実習当日は口腔内診査の介補方法ならびに“Four Handed Dentistry”の実技指導を行うので、その“手技”、“概念”についても復習しておく。
- 4) 実技の評価表への検印は、実習終了後1週間以内にもらうこと。
1週間を過ぎた場合は再実習を課す。
- 5) 実習終了時にアポイント帳に押印してもらう。
- 6) 押印後の評価表は臨床実習1終了時に回収するので、それまで各自保管する。
- 7) レポート(ノート)は、担当医の指示に従い、速やかに提出する。

2. 注意事項

1) 見学時の注意

- (1) 診療室内では私語を慎む。
- (2) 患者の障害についてや恐怖・不安をかき立てるような言動などの禁句を控える。
- (3) 患者に誠意を持ち、温かい心で接する。
- (4) 障害による“困難さ”には、必要に応じて手を貸すことが大切であるが、基本的には見学中は指導医から指示されたこと以外には手を貸さない。
- (5) 患者の面前に大勢で立たない。
- (6) 患者、保護者、介護者のいるところで指導医への質問は控える。
待合室や隣の診療室にも気を配る。
- (7) 見学症例数が到達数に達しても、実習時間中は見学をする。

2) 見学時の服装

- (1) 院内実習で定められた服装。帽子は使用しない。マスクは必要な場合に着用する。
- (2) 胸、腹部ポケット内に必要以上の筆記用具等を入れない。

3) 臨床実習1シラバス

- 配布された臨床実習1シラバスは臨床実習を受けるにあたって、事前に理解すべき事項が記載してある。したがって、十分に理解しているものとして臨床実習を進める。必ず、実習前に熟読しておく。
- 4) 実習当日は各自、既に配布してあるA4版のノートを持参する。
 - 5) 特別な理由なく学生からの実習日変更依頼は認めない。

平成25年度 臨床実習1 (5月～9月)

診療科名：再生歯科治療学講座

担当教員名：和田守康、長濱文雄、内山敏一、牧村英樹、西谷知子、菊地信之、
染井千佳子、村山優、福島由梨、福田良子

実施場所：第3総合診療室 ユニットNo19～27

① ユニット課題：

1. 診療見学、介補を3回行う。その中で、Opeの見学を1回行う。
2. 診療見学介補後、口頭試問を受ける。
3. Ope見学後、1週間以内にレポート提出および口頭試問を受ける。
4. 診療介補について介補者1名までとする。但し、Opeの場合は3名までとする。

② 到達目標 (GIO)

再生歯科治療を実践できるようになるために必要な基本的知識・技能および態度を習得する。

③ 行動目標 (SBOs)

1. 歯の移植・再植の概念を習得する。
2. 外科的歯内療法概念を習得する。
3. 歯の移植・再植および外科的歯内療法を考慮した治療計画を立案できる。
4. 一般的な診療の概念を理解する。

④ 学習方法 (LS)

1. 診療室での介補・Opeの見学
2. レポートおよび口答試問

⑤ 評価方法 (EV)

1. 臨床実習態度
2. 口頭試問
3. レポート

⑥ 備考 (その他留意事項等)

Opeの見学を希望する者は、再生歯科Ope台帳に院内番号と氏名を記入すること。
患者と実際に接することから、清潔な身なりで、また、適度な緊張感をもって介助・
Ope見学を行うこと。

平成25年度 臨床実習1 (5月～9月)

診療科名：顎関節・咬合科
担当教員名：成田紀之、内田 貴之、大久保 昌和、小見山 道、神谷 和伸、 下坂 典立、飯田 崇
実施場所 病院3階診療室3、5、顎関節・咬合科 (口・顔・頭の痛み外来 (歯科))
① ユニット課題 ・顎関節・咬合科 (口・顔・頭の痛み外来 (歯科)) で症例の見学をする。 ・見学症例の診査・診断プロセスと治療の内容に関するレポートを提出する。 ・提出レポートについての口頭試問を受ける。
② 到達目標 (GIO) 顎関節・咬合科 (痛み歯科) において、顎関節症ならびに口腔顔面痛における診査・ 診断、ならびに治療を実践するにあたって必要とされる基本的な知識と技能および態度 を習得する。
③ 行動目標 (SB0s) 1. 顎関節症について説明ができる。 1) 顎関節症の診査を説明できる。 2) 顎関節症の診断を説明できる。 3) 顎関節症の治療方針を説明できる。 4) 顎関節症患者へのホームケアの指導を説明できる。 2. 三叉神経痛、外傷性三叉神経痛障害、帯状疱疹後神経痛について説明ができる。 1) 三叉神経痛、外傷性三叉神経痛障害、帯状疱疹後神経痛の病態を説明できる。 2) 三叉神経痛、外傷性三叉神経痛障害、帯状疱疹後神経痛の治療法を説明できる。 3. 痛みに見合う器質的異常がなく、かつ、心理・精神的要因が痛みと関連する状態に ある (心因性疼痛) について説明ができる。 1) 心因性疼痛の病態を説明できる。 2) 心因性疼痛の治療法を説明できる。 4. 関連痛について説明ができる。 1) 歯髄炎、筋・筋膜炎、などの関連痛を引き起こす疾患を説明できる。 2) 筋・筋膜炎への理学療法的対応を説明できる。 5. 顎関節症ならびに口腔顔面痛における画像検査について説明ができる。
④ 学習方法 (LS) ・顎関節・咬合科 (口・顔・頭の痛み外来 (歯科)) での症例見学 (3症例) を行う。 ・担当医へ見学症例のレポートを提出する。 ・担当医からレポートの内容の口頭試問を受ける。
⑤ 評価方法 (EV) 1 症例見学 2 見学症例に関するレポートの評価 3 レポートに対する口頭試問
⑥ 備 考 (その他留意事項等) ・わからないことは何でも聞くようにして下さい。 ・担当医から診断の基準をよく習ってください。 参考図書 TMDを知る ベルの口腔顔面痛 口腔顔面痛 基礎から臨床へ Okeson TMD 口腔顔面痛の最新のガイドライン改訂第4版 クインテッセンス出版1997 クインテッセンス出版1998 クインテッセンス出版2001 医歯薬出版 2006 クインテッセンス出版2009

平成25年度 臨床実習1 (5月～9月)

診療科名：口腔インプラント科
担当教員名：加藤 仁夫、村上 洋、井下田 繁子、玉木 大之、北川 剛至、毛塚 和哉、安岡 沙織、櫻井 甫、竹野 智崇、船木 幹子
実施場所：1. 総合診療室、小手術室、手術室 2. インプラント説明会 会場 3. 校舎棟教室 (詳細は、別途指示) 4. 院内技工室・職員技工室・医員技工室
① ユニット課題 インプラント治療における診断からメンテナンス・リコールまで一連の流れについて理解し、医療チームの構成員として適切な行動をとる。
② 到達目標 (GIO) 欠損補綴の回復方法を適切に患者に提供するために、インプラント治療に関する基本的知識、技能、態度を習得する。
③ 行動目標 (SBOs) 1. インプラントの基本構造を説明できる。 2. インプラントの種類、特徴、目的および意義を説明できる。 3. インプラント治療 (外科・補綴) を説明できる。 4. インプラントを用いた治療法と他の治療法の違いを説明できる。 5. インプラント治療のリスクについて説明できる。 6. インプラントのメンテナンス・リコールを説明できる。 7. インプラントの適応症と合併症を説明できる。 8. インプラント模型を用いた埋入実習ができる。
④ 学習方法 (LS) 1. インプラント説明会にスタッフとして参加する。 2. インプラント患者の症例見学、介補を行い、担当医とディスカッション等を行う。 3. 指定した内容の事前学習を行い、テストに参加する。 4. 見学症例のレポートを提出する。 5. インプラント模型実習
⑤ 評価方法 (EV) 1. インプラント説明会の参加、インプラント1次手術の見学、模型実習 2. 症例見学の検印数およびレポート提出 3. 指定した事前学習およびテスト (詳細は、後日班ごとに連絡)

⑥ 備 考（その他留意事項等）

- ・事前学習の上参加すること。
- ・患者により、見学ができないこともあるので
- ・インプラント説明会:参加予約表に院内番号、氏名を記載し、担当医に確認すること。準備から参加し、途中退出不可。（各回6名まで）
- ・模型実習は、指定日実施。
（欠席は認めない。病欠など診断書がある場合には応相談。）
- ・インプラント手術見学など予約が必要。
- ・配属期間中の検印のみが有効。チーム診療担当患者の場合には、配属期間外の検印も有効。（検印表にID記入）
- ・レポートは、口腔インプラント学講座医員（教育医員）のみ。見学などは、口腔インプラント科員のみ検印有効。

平成25年度 臨床実習1 (5月～9月)

診療科名：スポーツ健康歯科

担当教員名：川良美佐雄（教授），黒木俊一（准教授），小見山 道（准教授），鈴木浩司（専任講師），浅野 隆（専任講師），飯田 崇（助教）

実施場所： 日本大学松戸歯学部付属病院3階総合診療室

① ユニット課題

- ・スポーツマウスガード製作のための印象採得・装着・調整の見学
- ・睡眠時無呼吸症候群患者の口腔内装置製作治療における印象採得・装着・調整の見学

② 到達目標 (GIO)

患者の口腔外傷予防や健康増進に対する要望に応えるために、スポーツ歯科医学や睡眠健康科学に必要な知識、態度、技能を習得する。

③ 行動目標 (SBOs)

- ・スポーツにおける顎口腔系の動態について説明できる
- ・スポーツマウスガードの目的を説明できる
- ・いびきや睡眠時無呼吸症候群の病態を説明できる
- ・いびきや睡眠時無呼吸症候群の歯科的対応について説明できる

④ 学習方法 (LS)

- ・模型印象等の実技
- ・チェアサイドでの診療見学および介補

⑤ 評価方法 (EV)

1. 臨床実習に臨む態度を評価
2. 介補、見学時の態度を評価
3. レポート、口頭試問により知識を評価
4. 評価は補綴科に含む

⑥ 備 考 (その他留意事項等)

1. 臨床実習1の期間内に1回以上の見学を行い、レポート提出。その後、口頭試問を行う。
2. 見学ができなかった場合は、課題に対するレポート提出を行う。その後、口頭試問を行う。
3. レポートは見学後、2週間以内に担当医に提出する。
4. レポート提出後、速やかに口頭試問を受ける。
5. 見学のアPOINTは担当医員に当該症例のアPOINT状況を確認して取ること。

職員技工室の配属について

1. 時 間 午前 9 時 40 分から午後 4 時 30 分まで
2. 場 所 職員技工室
3. 内 容 技工物の印象から完成までの見学研修
 - (1) 研究用模型の製作
 - (2) 印象及び技工物の受渡し
 - (3) 技工指示書の内容の確認（ミス及び完成日のチェック）
 - (4) シェードテイキング
 - (5) その他
4. 休 憩 午前 11 時 30 分から午後 12 時 30 分までと、午後 12 時 30 分から午後 1 時 30 分までの交替制

臨床実習 2

シ ラ バ ス

臨床実習2の実施方法

1. 実習のシステム

- 1) 現行の12班を、第1グループ(A・B班)、第2グループ(C・D班)、第3グループ(E・F班)、第4グループ(G・H班)、第5グループ(I・J班)、第6グループ(K・L班)に6分割する。
- 2) セメスターを6期に分割する。
- 3) 各グループは、期間単位で配属表に従いローテイトする。

2. 各診療科の臨床実習

- 1) 担当患者さんの診療は担当医員のアポイント帳のもとに行い、配属とは無関係に行う。
- 2) 臨床検査科、特殊歯科は配属により、口腔インプラント科は口腔外科配属期間中に班別実習およびアポイントにて行う。
- 3) 放射線科はセメスター期間を通して配属によって行う。
- 4) 初診科、小児歯科、矯正歯科および麻酔・全管科は、セメスターの期間を通してアポイントにより行う。但し、見学・介補等については期間単位で指定された期間に行う。
- 5) 再生歯科、顎関節・咬合診療科、スポーツ健康歯科は配属期間中に、医科は、セメスターの期間を通して自由にアポイント等により行う。
- 6) 予診(診断情報)の収集は、日程表に従い行う。
- 7) 全ての診療科の臨床実習は、学生のアポイント帳に実習時間(内容)を記載・検印して行う。

3. 臨床実習ノート・CC(SD)ファイル

臨床実習における見学・介補、実技等の実習内容の記録として、各診療部の指示により使用する。臨床実習ノートには患者様の氏名、住所、電話番号等は記載してはならない。
患者さんの情報が記載されているためこのノートの管理には十分注意すること。

4. アポイント帳

診療のアポイントに際して予約検印を受け、診療時あるいは診療後に指導医員に終了検印を受ける。見学・介補の際も同様に指導医員欄に検印を受ける。

5. 引継ぎ患者

引継ぎ診療患者様、約10数名を常に担当する。実習期間に終了、中止等の場合は治療計画書の変更手続き等を治療計画室に必ず届け出ること。随時補充をうけることとなる。

6. 出欠席について

午前 月～土 歯科医学総合講義5で出席調査 8:35

午後 月～金 16:30 土 13:00 各配属先診療科

朝出欠席調査時は院内白衣に着替えておくこと(着替えていない場合欠席とみなす)。

歯科医学総合講義5に関する試験実施日は、朝の出席は試験の出欠をもって行う。

注) 臨床実習の実施方法についての詳細は日程表を参照のこと。

平成25年度 臨床実習2 配属表

期	1	2	3	4	5	6	
曜日+土曜日	19+5	18+4	19+4	17+3	19+3	17+3	
期間	10月1日～10月29日	10月31日～11月26日	11月28日～12月24	12月26日～1月28日	1月30日～2月25日	2月27日～3月31日	
担当患者の処置	セメスター期間を通してアポイントによって行う						
班	初診科, 放射線科, 小児歯科, 矯正歯科, 特殊歯科, 臨床検査科, 技工室: セメスター期間中配属, アポイントにより行う 麻酔・全身管理科: 配属期間中の個別アポイントにより行う。 口腔インプラント科: 班別実習, 配属期間中に個別アポイントにより行う 再生歯科, 顎関節・咬合診療科, スポーツ・睡眠健康歯科, 医科: 臨床実習1の期間中, 自由にアポイント等により行う						
A, B	班別配属	口腔外科	保存科・歯周科	補綴科	口腔外科	保存科・歯周科	補綴科
	配属中の個別アポイント	麻酔・全身管理科 口腔インプラント科			麻酔・全身管理科 口腔インプラント科		
C, D	班別配属	補綴科	口腔外科	保存科・歯周科	補綴科	口腔外科	保存科・歯周科
	配属中の個別アポイント		麻酔・全身管理科 口腔インプラント科			麻酔・全身管理科 口腔インプラント科	
E, F	班別配属	保存科・歯周科	補綴科	口腔外科	保存科・歯周科	補綴科	口腔外科
	配属中の個別アポイント			麻酔・全身管理科 口腔インプラント科			麻酔・全身管理科 口腔インプラント科
G, H	班別配属	口腔外科	保存科・歯周科	補綴科	口腔外科	保存科・歯周科	補綴科
	配属中の個別アポイント	麻酔・全身管理科 口腔インプラント科			麻酔・全身管理科 口腔インプラント科		
I, J	班別配属	補綴科	口腔外科	保存科・歯周科	補綴科	口腔外科	保存科・歯周科
	配属中の個別アポイント		麻酔・全身管理科 口腔インプラント科			麻酔・全身管理科 口腔インプラント科	
K, L	班別配属	保存科・歯周科	補綴科	口腔外科	保存科・歯周科	補綴科	口腔外科
	配属中の個別アポイント			麻酔・全身管理科 口腔インプラント科			麻酔・全身管理科 口腔インプラント科

* 配属の詳細日程表を参照のこと

平成24年度 臨床実習2 (10月～3月)

診療科名：初診科

担当教員名：伊藤孝訓，多田充裕，内田貴之，青木伸一郎，遠藤弘康，岡本康裕

実施場所
初診科診療室

① ユニット課題

- 1) 医療面接
- 2) 臨床推論
- 3) 良好な患者関係の構築

② 到達目標 (GIO)

問題志向型医療 (POS) に則って主要疾患や主要症状に対するプライマリー・ケアが実践できるようになるために，臨床推論の考え方の習得および良好なコミュニケーション構築するための技法を習得し，実際の患者に対して医療面接を実施することができる。

③ 行動目標 (SBOs)

- 1) 初診患者において面接技法に則った医療面接を行える。
- 2) 正確で十分な病歴 (患者の社会的・経済的・心理的背景を含む) を聴取できる。
- 3) 得られた病歴や所見を整理し，診療録の形式で記載できる。
- 4) 初診患者において得られた所見から異常所見を抽出し，それを手がかりに仮説演繹的な診断思考を行うことができる。
- 5) エックス線写真から，典型的な読像所見を抽出できる。
- 6) 口腔における主要疾患について診断できる。
- 7) 口腔における主要疾患について，基本的な治療方針 (初期計画) を立案できる。
- 8) 患者の現在の病態について，これまでの経過を踏まえて担当医に報告できる。
- 9) 患者に適切な医療面接スキルを使用することができる。
- 10) 患者背景に考慮したコミュニケーション技法を使用できる。

④ 学習方法 (LS)

- 1) 初診実習 (患者実習)
- 2) 医療面接ビデオのトランスクリプト
- 3) C. D. C (症例示説)

⑤ 評価方法 (EV)

評価シートおよび実習時の行動観察、提出物により総合的に評価する。

⑥ 備考 (その他留意事項等)

- 1) 初診患者は応急処置を要することがあるので，適切な対応とやめる患者の助けになりたいという真摯な気持ちで実習を行うこと。
- 2) 実習中は患者の対応に配慮し，私語は慎むこと。
- 3) 臨床実習にふさわしい態度・身なり・服装で臨むこと。
- 4) 集合時間を厳守すること。
- 5) 不明な点は，学生同士で解決せず教員に確認すること。

平成25年度 臨床実習2 (10月～3月)

診療科名：臨床検査科

担当教員名：福本雅彦・深津晶・続橋治・布施恵・市村真奈・田中征宏

実施場所

校舎棟2階歯科臨床検査医学講座医局に集合する。その後担当医と第5会議室（注：11/7及び11/14は別の場所で開催）へ移動する。

① ユニット課題

全身疾患を有する患者の歯科診療時に必要な検査項目を理解し、それらの検査を実施し、その検査結果を分析する。

② 到達目標 (GIO)

臨床実習1で習得した基礎知識をもとに、臨床の現場に患者によりよい歯科診療を実践するために必要な臨床検査の知識・技能・態度を習得できる。

③ 行動目標 (SBOs)

1. 歯科臨床における臨床検査の目的・概要を説明できる。
2. 外来で行われている検査方法を理解できる。
3. 臨床検査データの基本的分析が出来る。

④ 学習方法 (LS)

1. 実習方法
試験、見学・介補、口頭試問、レポート
2. 実習内容
 - 1) 試験
歯科診療に必要な臨床検査の目的・概要・基準値等について。
 - 2) 見学・介補
診療に支障がない場合に与える。
 - 3) 口頭試問
実習中に担当医が出題する。実習を行うための知識だけでなく、検査項目、検査理由、基準値等について質問する。
 - 4) レポート
各自に検査データの分析レポートを出題する。1症例を必須とする。

⑤ 評価方法 (EV)

実習態度、試験、口頭試問、分析レポートの結果をふまえ、総合的に評価する。

⑥ 備考 (その他留意事項等)

1. 配属該当者は、臨床実習1の評価表、4年次で使用したノート・プリントおよび筆記用具を持って、校舎棟2階歯科臨床検査医学講座医局に集合する。その後担当医と病院棟へ移動する。
2. 分析レポートは2週間以内に担当医に提出する。

平成25年度 臨床実習2 (10月～3月)

診療科名：放射線科
担当教員名：金田 隆, 池島 厚, 小椋一朗, 佐々木悠介, 今井浩之, 徳永悟士, 原 慶宜
実施場所：放射線科診療室
① ユニット課題 1) 口内法エックス線検査を行う。 2) パノラマエックス線検査を行う。 3) デジタルエックス線画像システムを操作する。 4) 頭部単純エックス線検査を見学する。 5) CT, MRIおよび超音波検査を見学する。 6) 口腔・顎顔面領域の画像診断を行う。
② 到達目標 (GIO) 歯科医師として顎顔面領域のエックス線撮影および画像診断ができるようになるために、各種画像検査法、口腔・顎顔面領域の正常像および病態像を修得する。
③ 行動目標 (SBOs) 1) 口内法エックス線検査ができる。 2) パノラマエックス線検査ができる。 3) デジタルエックス線画像システムの操作ができる。 4) 頭部単純エックス線検査が説明できる。 5) CT, MRIおよび超音波検査が説明できる。 6) 口腔・顎顔面領域の画像診断ができる。
④ 学習方法 (LS) 1. 放射線科配属 (2日間) 1) 放射線診療業務：当日の担当医の指導のもと、通常放射線診療に参加し、多くのエックス線写真を読影して、正常像および病態像を修得する。 2) 画像検査見学：顎顔面領域疾患に必要な頭部単純エックス線検査、CT, MRI, 超音波検査等を見学する。担当医により画像検査法や画像解剖等の口頭試問を受ける。 3) Teaching file：PCを用いて、症例を読影し、読影報告書を作成する。担当医により画像診断の口頭試問を受ける。 2. 他科配属及び配当患者の撮影実習 1) 配当患者の撮影は担当学生の本務とする。 2) 他科配属中に撮影依頼があった場合、積極的に撮影実習を行うこと。 3) 口内法エックス線検査3例およびパノラマエックス線検査1例を本務とする。また、撮影後の読影は2週間以内に必ず行う。
⑤ 評価方法 (EV) 1) 放射線科配属：口頭試問、実習態度、Teaching file の読影所見等にて行う。 2) 他科配属及び配当患者の撮影実習：エックス線撮影および読影所見にて評価する。 3) 実技 (80%) および実習態度 (20%) によって評価点とする。
⑥ 備 考 (その他留意事項等) 1) 参考図書 (1) 歯科放射線学実習書 (日本大学松戸歯学部放射線学講座編) (2) Q&Aで学ぶ歯科放射線学：SBOs講義 (学建書院) (3) 歯科放射線診断 teaching file 第2版 (砂書房) (4) 画像でみる歯科放射線 (CDR) (わかば出版) 2) 実習上の諸注意 (1) 診療室では通常診療が行われているため、私語は慎むこと。 (2) 機器の取扱いには十分注意すること。

平成25年度 臨床実習2 (10月～3月)

診療科名：保存科(保存修復)

担当教員名：池見 宅司、平山 聡司、鈴木 英明、神谷 直孝、岡田 珠美、森 俊幸、
岩井 啓寿、壹岐 宏二、関根 哲子、岡野 智子

実施場所
病院棟 2階 保存科診療室

① ユニット課題

保存修復治療の診療介助・見学・自験、およびそれらの症例に関連した口頭試問

② 到達目標 (GIO)

保存修復治療の診療介助と処置が適切に行えるようになるために、保存修復治療に必要な臨床的知識、技能および態度を身につける。

③ 行動目標 (SBOs)

- 1) 処置内容に沿った適切な術前・術後の説明ができる。
- 2) 硬組織疾患の検査ができる。
- 3) 象牙質知覚過敏の処置ができる。
- 4) MIを考慮した齶窩処置ができる。
- 5) コンポジットレジン修復の術式と使用器具について説明できる。
- 6) コンポジットレジン修復の形態修正と仕上げ研磨ができる。
- 7) 間接修復の種類、特徴、術式と使用器具について説明できる。
- 8) 修復前処置ができる。
- 9) 見学・介助した症例を理解し内容を詳細に説明できる。

④ 学習方法 (LS)

- 1) 修復処置の介助・見学を臨床実習1・2を通して72症例以上(介助50%以上)行う。
- 2) 見学症例に関連する口頭試問を臨床実習2期間中に2回行う。
- 3) 自験は臨床実習1・2を通して、処置前後の説明、硬組織疾患の検査、象牙質知覚過敏の処置、修復前処置(浸潤麻酔、歯肉排除、隔壁、ラバーダム防湿など)、コンポジットレジンの形態修正・研磨、う蝕検知液を併用した齶蝕処置、間接修復関連項目、単純窩洞のコンポジットレジン修復を各1回以上行う。
- 4) 臨床実習2期間中に保存科日直業務を4回以上行う。

⑤ 評価方法 (EV)

- 1) 見学・介助達成率：60% (臨床実習1・2で80症例以上(介助50%以上)達成した場合)
 - 2) 口頭試問成績：20% (臨床実習2期間中の口頭試問成績が合計20点の場合)
 - 3) 自験達成率：20% (臨床実習2期間中に評価3点の自験を10症例以上達成した場合)
 - 4) 上記1)～3)の合計が60点未満の場合、日直業務など臨床実習態度を加味する。
- 以上に対する総合的評価を臨床実習2の評価とする。

⑥ 備考(その他留意事項等)

- 1) 検印表は毎回必ず持参し、見学終了時に必要項目を記載し検印を受けること。
- 2) 日直業務は担当医の指示に従い、主として急患来院患者に対する診療介助を行う。
- 3) 見学者数は基本的に介助者1名、見学者1名の計2名とする。ただし、症例数が少ないものは担当医が許可した場合のみ例外として計4名まで見学可とする。
- 4) 口頭試問の成績不良者に対してはレポート等が課される場合がある。
- 5) 口頭試問を期限までに受けなかった者には別途課題を課す。

平成25年度 臨床実習2 (10月～3月)

診療科名：保存科（歯内療法）
担当教員名：松島 潔、辻本恭久、川島 正、岡部 達、神尾直人、室町幸一郎、和田陽子、諸橋利朗、安達泰佑、小峯千明
実施場所：病院診療室
① ユニット課題：歯内療法処置を実施する。
② 到達目標（GIO）：歯内療法処置を実施するために、臨床に必要な知識、態度および技能を修得する。
③ 行動目標（SBOs）： (1) 問診および各種検査ができる。 (2) 主訴および必要な検査から処置方針の決定ができる。 (3) 歯内療法処置に必要な器材、薬剤が準備できる。 (4) 適切な診療介補ができる。 (5) 根管拡大を適切にできる。 (6) 根管長測定を適切にできる。
④ 学習方法（LS） 1) 実施方法 診療介補とそれに関連する実技実習 2) 実施内容 ①歯内療法の見学・介補を50回以上行う。②評価表の実技を評価表の実施項目に従って実施する。臨床見学については2名までとする。（介補者は除く）
⑤ 評価方法（EV） (1) 歯内処置の見学・介補ならびに評価表の検印数 (2) 臨床実習態度
⑥ 備考（その他留意事項等）

平成25年度 臨床実習2 (10月～3月)

診療科名：歯周科(予防管理科)

担当教員名：担当教員名：小方頼昌、吉野祥一、中山洋平、高井英樹、目澤 優、鈴木桃子、大橋顕二郎、岡野千春、武井美佑紀、廣松勇樹、豊嶋 泉、井上英子、蔦森麻衣

実施場所；付属病院歯周科診療室

① ユニット課題：歯周治療における介補・実技の実施および実技試験

② 到達目標 (GIO)：実際の臨床を通じて、歯周治療を実施するための技能、態度を習得し、総合的に歯周治療を理解する。

③ 行動目標 (SBOs) 1) 問診ができる。2) 歯垢染色ができる。3) プラークコントロールレコードの記入ができる。4) ブラッシング指導ができる。5) スケーリング・ルートプレーニングが実施できる。6) 歯週外科治療の種類の説明ができる。7) 歯週外科治療で使用する器具の名称と使用法が説明できる。8) サポートィブペリオドンタルセラピー (SPT) で行う項目について説明できる。

④ 学習方法 (LS)

1. 実習方法：診療見学・診療介補および実技、歯周外科手術の見学、症例検討会 (CPC)、口頭試問、日直

2. 実習内容：

1) 必修症例と症例数

〈見学、介補および実技〉

実習方法と実習項目の表を参照。症例数については60症例とする(これ以外に、歯周外科治療を3症例以上見学および介補を行う。)各項目の必須症例の見学および介補を行い、臨床実習評価として担当医に評価をもらう。

〈症例検討会：CPC〉

配属期間に関わらず、班ごとに症例検討会に参加する。CPCは、原則として毎週金曜日、午後6時より第4実習準備室にて行うので、班ごとに決められた日時(別紙配布)に参加すること。正当な理由で参加できない場合には、事前にその旨を申し出て予備日に参加することを認める。

〈歯周治療学SBOsノート〉

CPCに参加した学生は担当医から課題を受け、歯周治療学SBOsノートを作成し口頭試問を受ける。担当医は院内番号に従って定める(下記参照)。口頭試問の結果が適切な場合は検印を受ける。1；中山 2；吉野 3；岡野 4；高井 5；高井 6；武井 7；大橋 8；鈴木 9；鈴木 10；目澤 11；豊嶋 12；廣松

〈歯周外科治療の見学〉

歯周外科治療の見学者は原則として、1症例について5名までとする(担当学生は含まない)。ただし、担当学生がいない場合に限り介補担当者として1名の追加を認める。歯周外科治療の見学を希望する学生はオベ台帳に学生番号、氏名を記入し担当医の検印をただちに受けること(検印を受けてない学生はオベの見学を無効とする)。また、正当な理由で見学できなくなった場合はその旨を担当医に連絡し検印を受け、2重線(修正液不可)で氏名が確認できるように訂正すること。歯周外科治療の見学を行った学生は、その症例内容に応じたレポートを作成し、レポート提出に際して口頭試問を受ける。レポート、口頭試問の結果が適切な場合は検印を受ける。

3. 選択症例と症例数

〈見学、介補および実技〉

歯周科における実習は原則的に歯周科配当患者に対する介補および実技をもって評価する。配当患者については各班ごとに担当医を定めるので下記の担当医から各自2名以上の配当を受けること。

担当医一覧：A；小方、廣松 B；小方、大橋 C；小方、鈴木 D；小方 E；小方 F；小方、岡野 G；小方、中山 H；小方、高井 I；小方、武井 J；小方、豊嶋 K；小方、目澤 L；小方、吉野

⑤ 評価方法

原則として診療室における指導責任者、担当医による指導に従い、見学・介補および実技を行うが、症例内容については必要に応じて随時、口頭試問、レポートを課す。歯周科における評価は、配属期間中に限らず評価する。チーム診療の配当、歯周科配当に対する介補・実習は配属期間中に限らず対象とする。ただし、見学については配属期間中に限って認めるが、歯周外科治療の見学および介補は、配属期間に限らず認める。

〈評価基準〉

- 1) 目標症例・選択症例 (65症例の達成率、外科治療がある場合、準備、見学、介補など、それ以外に歯周外科治療を4症例以上見学および介補を行う)
 - 2) 歯周科の日直としての業務に対する評価
 - 3) CPCの評価
 - 4) 口頭試問、レポートの評価
 - 5) 介補および実技 (歯周精密検査、ブラッシング指導、スケーリング・ルートプレーニング、PMTCの手技の評価)
- 以上に対する総合的評価をセメスターの評価とする。

⑥ 備 考 (その他留意事項等) 実習中の諸注意

- 1) 症例の評価は、見学、介補および実技後にその内容を理解しているかをチェックしてから検印を行う。
- 2) 期間中は、日直または指導責任者、担当医の指示に従う。また、班ごとに指導責任者の指示に従い、担当医と密接に連絡を取りながら、実習が円滑に行えるように計画的に実習を遂行すること。実習実施日の前日までに必ず担当医とアポイントを取り、アポイント帳に検印を受けること。また、当日の準備などについても、担当医の指示を仰ぐこと。担当医、指導責任者の許可なく、診療室に不在の学生は、実習を放棄したものとみなす。万が一欠席する場合は、担当医の許可を得て適切な指示を仰ぐこと。
- 3) 歯周科の評価表は、毎日必ず持参し、評価表の記入については、見学、介補および実技表について、症例ごとに日付、該当する細項目名および番号を記入し検印を受けること。(実技表に検印を受ける場合、見学、介補表には同一診療の検印を受けられないので注意すること。
- 4) 歯周科配属期間中は、各3～5名の日直を設ける(別紙参照のこと)。歯周科日直の義務は以下の事とし、やむを得ない理由で日直が行えない場合は事前に必ず代理を立て、その旨を日直担当医に報告すること。
 - (1) 急患に対する準備・介補
 - (2) 教授の診療補助などの歯周科における診療が円滑に進むように担当医に従う。
 - (3) 日直時の見学、介補および実技は日直印のみとする。

平成25年度 臨床実習2 (10月～3月)

診療科名：補綴科 (クラウンブリッジ)

担当教員名：*會田雅啓, *小林 平, *若見昌信, *大村祐史, *田中孝明, *後藤治彦, 齊藤美佳, 青木直子, 金子珠美, 内堀聡史, *河相安彦, *成田紀之, *飯島守雄, *伊藤誠康, *大久保昌和, *木本 統, *中田浩史, *林 幸男, *石井智浩, *神谷和伸, *矢崎貴啓, 池口信之, 井上正安, 伊藤奈那, 小出恭代, 佐藤貴信, 末光弘宣, 中村耕実, 義隆淑子, 植木克昌
(*: 指導教員)

実施場所：病院診療室, 院内技工室, 職員技工室, 医員用技工室

① ユニット課題

担当患者または見学・介補を行った患者におけるクラウンブリッジ製作の治療過程において、その過程を理解し、治療に必要な知識と態度、技能を習得する。

② 到達目標 (GIO)

クラウン・ブリッジの診査・診断, 治療計画, 術式および予後について介補, 見学, 実技, 技工を通じ理解し, その基本的臨床能力を身につける。

③ 行動目標 (SBOs)

- 1) クラウンブリッジの診査項目を理解し行うことができる。
- 2) 予備印象を採得することができる。
- 3) クラウンブリッジの設計を含めた治療計画を立案することができる。
- 4) 支台築造の目的と方法について述べるができる。
- 5) 歯肉圧排の目的を理解し行うことができる。
- 6) クラウンおよびブリッジの支台歯形成について述べるができる。
- 7) 最終印象の方法を述べるができる。
- 8) プロビジョナルレストレーションの作製および仮着の要件について述べるができる。
- 9) 咬合支持に応じた咬合採得を理解し行うことができる。
- 10) フェイスボウトランスファーの意義と操作方法を理解し述べるができる。
- 11) シェードテイキングの要点について述べるができる。
- 12) 咬合器の目的と取り扱いについて述べるができる。
- 13) クラウンブリッジ試適時における診査項目を理解することができる。
- 14) クラウンブリッジの仮着を理解し行うことができる。
- 15) クラウンブリッジの装着について述べるができる。
- 16) クラウンブリッジの術後管理について指導ができる。
- 17) 装着後のトラブルおよび変化の原因と対処法について述べるができる。

④ 学習方法 (LS)

担当患者や日直もしくは見学患者の診療での介補・見学を主体として担当教員との2～3人でのスモールグループによる実習を行う。

⑤ 評価方法 (EV)

見学・介補・実技について検印数および評価点数により採点を行い, 実習態度等の内容も含め総合的に判断して最終評価とする。①表 (担当患者) および実施の点数は3点, ②表 (見学症例) の点数は1点とする。①表 (担当患者) は介補・見学を終了した時点でカルテ番号と日付を記載し, 2週間以内に進行表に治療内容を記載し, **口頭試問を受け**, 担当医の検印を受けたものとする。期日を過ぎたものおよび記載事項が不備, 口頭試問で理解が得られていない者は評価表②に検印を行う。実技を行ったケースに関しては口頭試問を行い, ①もしくは②表と③表に検印を受ける。**見学・実技の*は必須項目とし, 見学・実技のどちらかで検印を受けること。**

⑥ 備 考（その他留意事項等）

事前学習の上で見学・介補を行い、不明な点は事後補うこと。見学・介補における検印は担当教員または併印で可。実技は指導教員の検印のみ有効。指導教員は*の教員とする。実技においては途中で医員への交代を促す場合がある。別途必要な評価表を配布する。

平成25年度 臨床実習2 (10月～3月)

診療科名：補綴科（局部床義歯）

担当教員名：會田雅啓・河相安彦・成田紀之・小林 平・飯島守雄・大村祐史・若見昌信・田中孝明・伊藤誠康・大久保昌和・木本 統・中田浩史・石井智浩・後藤治彦・神谷和伸・矢崎貴啓・池口伸之・井上正安・菅野京子・小出恭代・佐藤貴信・末光弘宣・中村耕実・義隆淑子・伊藤菜那・植木克昌・斉藤美佳・加藤仁美・青木直子・金子珠美・内堀聡史（順不同）

実施場所：附属病院診療室、院内技工室、職員技工室、医員用技工室

① ユニット課題：配当患者または見学に就いた患者における局部床義歯製作の治療過程において、見学・介補および実技を行い、局部床義歯製作の過程を理解し、治療法を習得する。局部床義歯治療に必要な知識を習得する。

② 到達目標（GIO）：患者個々に適した局部床義歯を作製する基本的臨床能力を身につけるために必要な診査・診断、術式および予後に関する知識、技能および態度を習得する。

③ 行動目標（SBOs）：

- ① 補綴歯科治療に必要な器具・器材を適切に使用することができる。
- ② 補綴歯科治療に必要な検査機器を適切に使用することができる。
- ③ 義歯の設計を適切にできる。
- ④ 口腔内診察および検査結果に基づいて義歯の治療計画の立案が適切にできる。（予備印象と研究模型の製作を含む）
- ⑤ 治療計画に基づいて適切な前処置（マウスプレパレーション）を行なうことができる。
- ⑥ 筋圧形成を適切に実施できる。
- ⑦ 印象採得を適切に行なうことができる。（個人トレーの製作を含む）
- ⑧ 咬合採得を適切に行なうことができる。
- ⑨ 咬合器を適切に調整することができる。
- ⑩ 人工歯を適切に選択することができる。
- ⑪ 仮床義歯試適時の診査を適切に行なうことができる。
- ⑫ 完成した義歯を患者に適切に装着することができる。
- ⑬ 患者に対して義歯使用上の注意点について説明できる。
- ⑭ 義歯装着後の調整を適切に行なうことができる。
- ⑮ 義歯装着後の定期健診を実施することができる。
- ⑯ 義歯装着後の修理、再適合を適切に行なうことができる。
- ⑰ 患者の苦痛に配慮した診療介補および処置ができる。
- ⑱ リングクラスプのワックスアップができる。

④ 学習方法（LS）：①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱ 臨床実習1・2期間中に見学・介補・実技

⑤ 評価方法（EV）：見学・介補については口頭試問による評価を行う。実技については実技評価表による評価を行う。臨床実習2の期末にOSCATとWebClassによる試験を行う。

⑥ 備考（その他留意事項等）：OSCATとWebClassによる試験については別途通知する。

平成25年度 臨床実習2 (10月～3月)

診療科名：口腔外科
担当教員名：秋元芳明、近藤壽郎、西村均、田中茂男、池谷美和、伊藤耕、原正浩、武田祥人、藤本陽子、石上大輔、須藤亜紀子、山口桜子、田島秀人、羽田紗綾、平川剛、横川真千代、石原芳紀、松本健司、高橋康輔、岩井 聡、河島 陸、谷野 弦、萩原美緒、深田朱里、飯塚普子、植木宏之
実施場所：診療室、手術室、病棟
① ユニット課題口腔外科領域における的確な処置（抜歯・難抜歯・埋伏歯抜歯・外来小手術）を行うために必要な基本的知識、技能、態度を習得する。 臨床実習1、2を通して実技症例（問診、口腔内消毒、抜糸、縫合、処方箋等）を所定回数実施する。 臨床実習2の配属期間中には、抜歯介補症例を20例以上（8症例以上は埋伏し抜歯とする）、小手術症例介補あるいは見学を5症例以上、小手術症例においては3症例レポートを担当教員に提出する。
② 到達目標（GIO）口腔外科領域における的確な処置（抜歯・難抜歯・埋伏歯抜歯・外来小手術）を行うために必要な基本的知識、技能、態度を習得する。
③ 行動目標（SB0s）①口腔外科外来診療の流れを理解し、患者に配慮した行動が出来る。 ②口腔外科外来小手術で使用する器材の使用方法が説明できる。 ③適切な手指消毒と滅菌グローブの装着ができる。 ④適切な口腔内消毒が実施できる。 ⑤各種局所麻酔法を理解し、浸潤麻酔を実施することができる。 ⑥口腔外科領域における的確な処置に必要な器材を準備することができる。 ⑦処置前・処置後に患者へ注意事項の説明ができる。 ⑧処置前に患者のバイタル測定ができる。 ⑨処置の介補ができる。 ⑩小手術（抜歯以外）の術式を説明できる。 ⑪有病者の歯科治療について留意点を説明できる。 ⑫内服薬の処方ができる。
④ 学習方法（LS）①③－⑨⑫について患者実習 ⑩について自習 ⑪についてCSLで行う。
⑤ 評価方法（EV）①③－⑨⑫について観察記録およびOSCAT ⑩⑪についてレポートにて評価する。
⑥ 備考（その他留意事項等）実技症例、準備症例の達成度、レポートの内容を総合的に評価する。小手術症例のうち3症例は、レポートを担当教員に提出する。その他の症例症例用紙に関しては、評価の加点とする。詳細については、所定用紙にて確認のこと。

平成25年度 臨床実習2 (10月～3月)

診療科名：矯正科
担当教員名：葛西一貴、今村隆一、山口 大、小野修一、五関たけみ、榎本 豊、齋藤勝彦、弘松美紀、根岸慎一、徳永理利、小堀理恵、石井さおり
実施場所 1) 分析・治療方針の立案（外科矯正症例）：第3・第3B会議室、学生セミナー室 2) 症例見学・介助および口腔内診査：矯正科診療室
① ユニット課題1) 外科矯正症例について分析・治療方針の立案 2) 矯正治療の症例見学・介助および口腔内診査 3) 口頭試問・レポート作成
② 到達目標 (GIO) 基本的歯科矯正治療を実践できるようになるために必要な知識・技能および態度を習得する。
③行動目標 (SBOs) SBOs:1) 模型分析が実施できる。2) セファログラム分析が実施できる。3) 模型・セファログラム分析から診断できる。4) 診断から治療計画を立案できる。5) 患者や保護者に配慮した診察・診査ができる。
④ 学習方法 (LS) A 分析・治療方針の立案 1) 模型分析：歯列長径・幅径および歯槽基底長径・幅径を計測しポリゴン図表に記載する。 2) セファログラム分析：トレースから必要な計測を行いポリゴン図表を完成する。 3) 診断・治療方針の立案から治療に用いる矯正装置を選択、治療による変化を検討する。 B 症例見学：指定患者の矯正治療について臨床実習2期間に見学・介助を4回以上（1回以上は介助）を行い、見学内容についてのレポート作成を行う。レポート提出は2週間以内とする。 C 臨床実習1、2の期間中（通年）に1回の精密検査の見学・介助および口腔内診査を行う。
⑤ 評価方法 1) 分析・治療方針の立案 (50%)：評価シートにより評価を行う。 2) 症例見学 (40%)：臨床実習2期間に見学・介助を4回以上（1回以上は介助）・レポート作成および口頭試問を行い評価を行う。 3) 精密検査の見学・介助 (10%) 臨床実習1、2の期間中（通年）に1回の精密検査の見学・介助および口腔内診査を行い評価を行う。
⑥ 備 考 (その他留意事項等) 矯正治療の見学・介補の際には、患者様に不快な思いをさせないように十分に配慮し、言動に気を配ること。

平成25年度 臨床実習2 (10月～3月)

診療科名：小児歯科
担当教員名：清水邦彦、清水武彦、荒井清司、小川 京、伊藤奈々、小尾友美、折野大輔、平井則光、青木 望 砂田怜子 山本晴子 伊藤龍朗
実施場所：小児歯科診療室
① ユニット課題 小児期の歯科診療を理解する
② 到達目標 (GIO) 小児の歯科治療および口腔疾患の予防を行うために基礎的な知識、技能、態度を身につける。
② 行動目標 (SBOs) 小児の齲蝕治療を理解する。 小児の抜歯および外傷について理解する。 小児の保険について理解する。 小児の対応について理解する。 小児の予防処置を理解し、行う。 小児の定期健診を理解する。 小児の症例検討を行う。 小児のラバーダムおよび断髄の介補を行う。
④ 学習方法 (LS) 診療の見学および介補を行う。また担当した症例のディスカッションを行う。
⑤ 評価方法 (EV) 別紙の見学・評価表に記載した事項に従い評価する (85%) 必要に応じて口頭試問およびレポートを課す (15%)
⑥ 備考 (その他留意事項等) 小児患児は、ほとんどの場合、保護者と同伴して来院する。保護者は自分の子供がどのような院内生に診られるのか多少の不安を抱いている。どの世代の保護者にも安心して子供を任せられるような院内生でなくてはならない。

平成25年度 臨床実習2 (10月～3月)

診療科名：麻酔・全身管理科

担当教員名：渋谷 鉦、山口秀紀、石橋 肇、卯田昭夫、下坂典立、鈴木正敏、峯村麻由
岡部靖子、石川義継、片岡尚一

実施場所
外来または手術室

① ユニット課題
全身管理

② 到達目標 (GIO)
安全な歯科治療を施行するために、全身管理法および精神鎮静法の基本的な知識と技術を習得する。

③ 行動目標 (SBOs)
1. 周術期管理に必要なモニターを選択し、患者に装着することができる。
2. 全身疾患を有する患者の歯科治療時の注意点について述べるができる。
3. 精神鎮静法の適応とその実施法について述べるができる。
4. 緊急偶発症発生時の対処法について述べるができる。

④ 学習方法 (LS)
・全身管理症例の見学、症例により介補。
・笑気吸入鎮静法について筆記試験および相互実習。

⑤ 評価方法 (EV)
見学態度、レポート内容、口頭試問および評価表により、総合的に評価する。追加の見学実習を希望する場合は選択症例とし、評価に値すれば成績に加点とする。

⑥ 備 考 (その他留意事項等)
・実習は配属期間中に行う。
・全身管理を必要とする患者の配当を受けた院内生は配属期間外でも選択症例として取り扱うことができる。
・臨床実習1において見学および採点が済んでいるものは必須ではない。
・症例の配当は毎週木曜日、17時以降に401教室で行う。
・実習日時少なくとも2日前までに担当医局員と連絡をとり、集合時間や症例内容、注意事項について説明、伝達を受けること。
・選択症例、その他を希望する院内生は医局員に申し出ること。
・配属期間中に笑気吸入鎮静法について相互実習を行う。

平成25年度 臨床実習2 (10月～3月)

診療科名：特殊歯科

担当教員名：野本たかと、伊藤政之、梅澤幸司、林佐智代、田中陽子、和井田暢子
水野貴誠、伊藤梓、猪俣英理、地主知世、西山めい、秋山真帆、村上絵梨

実施場所
特殊歯科診療室

① ユニット課題

見学により障害者歯科診療で重要となる障害についての理解を深めるとともに診療介補を体験する。また、理解の確認のために症例検討を行い、知識の整理と習得のために症例検討に準じた課題レポートを課す。

② 到達目標 (GIO)

歯科医療の対象としてのスペシャルニーズがある人の存在を知り、その臨床の実際を体験することを通じてスペシャルニーズがある人を患者として受け入れることができる歯科医師としての知識・態度を修得する。

③ 行動目標 (SBOs)

1. 診療の流れを理解して説明することができる。
2. スペシャルニーズがある人の身体的、精神的および心理的特徴を説明できる。
3. 特殊歯科における行動調整法を観察し、説明できる。
4. 各歯科治療の介補を実践できる。
5. スペシャルニーズがある人のホームケア指導について説明できる。

④ 学習方法 (LS)

1. 実習方法
診療見学、各治療の介補、症例検討、レポート、臨床能力到達試験
2. 実習内容
 - 1) 症例と症例数 (minimum requirement)
 - (1) 〈必修症例〉
 - ・治療の介補症例 : 症例数 1
 - 実習内容 各治療の介補
 - (2) 〈見学症例〉
 - ・治療症例 : 症例数 8
 - ・実習内容 見学
 - 2) 症例検討
症例検討は原則として、各指導医が提示した患者データをもとにホームケア指導について検討する。
 - 3) レポート
レポート課題は症例検討時に検討をした患者に対するホームケア指導について各指導医が出題する。また、レポートは原則として症例検討終了1週間後の正午までに特殊歯科内の提出欄に提出とする。
 - 4) 臨床能力到達試験

⑤ 評価方法 (EV)

実習態度、評価表記載の症例数・内容、症例検討、レポート、臨床能力到達試験

⑥ 備 考 (その他留意事項等)

1. 手続き

- 1) 実習前に担当医の指示により、必修症例の診療録ならびに電子カルテの閲覧を行う初回のコンタクトを設ける。この際、アポイント帳の実習予定日に押印を受ける。
- 2) 初回のコンタクトは、実習開始3日前（土、日、祝祭日は含まない）の17:00である。実習当日までに、症例患者に係わる障害、行動調整手段等について事前に自習する。
- 3) 実習当日は9:30までに診療室へ集合する。なお、試験等で集合時間に遅れる場合は事前に特殊歯科に申し出る。
- 4) 評価表への検印は、口頭試問終了後1週間以内にもらう。1週間を過ぎた場合は再実習を科す。
- 5) 実習終了時にアポイント帳に押印してもらおう。
- 6) 押印後の評価表は臨床実習2終了時にまとめて回収するので、それまで各自保管する。
- 7) レポート（ノート）は、担当医の指示に従い、速やかに特殊歯科診療室内レポート提出棚に提出する。

2. 注意事項

1) 見学時の注意

- (1) 診療室内では私語を慎む。
- (2) 患者への不用意な言葉を控える。（患者の障害について、恐怖・不安をかき立てるような言動など）
- (3) 患者に誠意を持ち、温かい心で接する。
- (4) 障害による“困難さ”には、必要に応じて手を貸すことが大切であるが、基本的には見学中は指導医から指示されたこと以外には手を貸さない。
- (5) 患者の面前に大勢で立たない。
- (6) 患者、保護者、介護者のいるところで指導医への質問は控える。待合室や隣の治療室にも気を配る。
- (7) 見学症例数が到達数に達しても、実習時間中は見学をする。

2) 見学時の服装

- (1) 院内実習で定められた服装。帽子は使用しない。マスクは必要な場合に着用する。
- (2) 胸、腹部ポケット内に必要以上の筆記用具等を入れない。

3) 臨床実習2シラバス

配布された臨床実習2シラバスは臨床実習を受けるにあたって、事前に理解すべき事項が記載してある。したがって、十分に理解しているものとして臨床実習を進める。必ず、実習前に熟読しておく。

- 4) 実習当日は各自、既に配布してあるA4版のノートを持参する。
- 5) 特別な理由なく学生からの実習日変更依頼は認めない。

平成25年度 臨床実習2 (10月～3月)

診療科名：再生歯科治療学講座

担当教員名：和田守康、長濱文雄、内山敏一、牧村英樹、西谷知子、菊地信之、
染井千佳子、村山優、福島由梨、福田良子

実施場所：第3総合診療室 ユニットNo19～27

① ユニット課題：

1. 診療見学、介補を3回行う。その中で、Opeの見学を1回行う。
2. 診療見学介補後、口頭試問を受ける。
3. Ope見学後、1週間以内にレポート提出および口頭試問を受ける。
4. 診療介補について介補者1名までとする。但し、Opeの場合は3名までとする。

② 到達目標 (GIO)

再生歯科治療を実践できるようになるために必要な基本的知識・技能および態度を習得する。

③ 行動目標 (SBOs)

1. 歯の移植・再植の概念を習得する。
2. 外科的歯内療法概念を習得する。
3. 歯の移植・再植および外科的歯内療法を考慮した治療計画を立案できる。
4. 一般的な診療の概念を理解する。

④ 学習方法 (LS)

1. 診療室での介補・Opeの見学
2. レポートおよび口答試問

⑤ 評価方法 (EV)

1. 臨床実習態度
2. 口頭試問
3. レポート

⑥ 備考 (その他留意事項等)

Opeの見学を希望する者は、再生歯科Ope台帳に院内番号と氏名を記入すること。
患者と実際に接することから、清潔な身なりで、また、適度な緊張感をもって介助・
Ope見学を行うこと。

平成25年度 臨床実習2 (10月~3月)

診療科名：顎関節・咬合科
担当教員名：成田紀之、内田 貴之、大久保 昌和、小見山 道、神谷 和伸、 下坂 典立、飯田 崇
実施場所 病院3階診療室3、5、顎関節・咬合科 (口・顔・頭の痛み外来(歯科))
① ユニット課題 ・顎関節・咬合科 (口・顔・頭の痛み外来(歯科)) で症例の見学をする。 ・見学症例の診査・診断プロセスと治療の内容に関するレポートを提出する。 ・提出レポートについての口頭試問を受ける。
② 到達目標 (GIO) 顎関節・咬合科 (痛み歯科) において、顎関節症ならびに口腔顔面痛における診査・ 診断、ならびに治療を実践するにあたって必要とされる基本的な知識と技能および態度 を習得する。
③ 行動目標 (SBOs) 1. 侵害受容性疼痛 (顎関節症) について説明ができる。 1) 顎関節症の診査を説明できる。 2) 顎関節症の診断を説明できる。 3) 顎関節症の治療方針を説明できる。 4) 顎関節症患者へのホームケアの指導を説明できる。 2. 神経障害性疼痛 (三叉神経痛、外傷性三叉神経痛障害、帯状疱疹後神経痛など) に ついて説明ができる。 1) 神経障害性疼痛の病態を説明できる。 2) 神経障害性疼痛の治療法を説明できる。 3. 心因性疼痛 (痛みに見合う器質的異常がなく、かつ、心理・精神的要因が痛みと 関連する状態にある身体表現性障害 (疼痛性障害、身体化障害、心気症)、うつ病、 不安障害など) について説明ができる。 1) 心因性疼痛の病態を説明できる。 2) 心因性疼痛の治療法を説明できる。 4. 関連痛について説明ができる。 1) 歯髄炎、筋・筋膜痛、などの関連痛を引き起こす疾患を説明できる。 2) 筋・筋膜痛への理学療法的対応を説明できる。 5. 顎関節症ならびに口腔顔面痛における画像検査所見の説明ができる。
④ 学習方法 (LS) ・顎関節・咬合科 (口・顔・頭の痛み外来(歯科)) での症例見学 (3症例) を行う。 ・担当医へ見学症例のレポートを提出する。 ・担当医からレポートの内容の口頭試問を受ける。
⑤ 評価方法 (EV) 1 症例見学 2 見学症例に関するレポートの評価 3 レポートに対する口頭試問
⑥ 備 考 (その他留意事項等) ・わからないことは何でも聞くようにして下さい。 ・担当医から診断の基準をよく習ってください。 参考図書 TMDを知る ベルの口腔顔面痛 口腔顔面痛 基礎から臨床へ Okeson TMD 口腔顔面痛の最新のガイドライン改訂第4版 クインテッセンス出版1997 クインテッセンス出版1998 クインテッセンス出版2001 医歯薬出版 2006 クインテッセンス出版2009

平成25年度 臨床実習2 (10月～3月)

診療科名：口腔インプラント科

担当教員名：加藤 仁夫、村上 洋、井下田 繁子、玉木 大之、北川 剛至、毛塚 和哉、安岡 沙織、櫻井 甫、竹野 智崇、船木 幹子

実施場所： 1. 総合診療室、小手術室、手術室
2. インプラント説明会 会場
3. 校舎棟教室 (詳細は、別途指示)
4. 院内技工室・職員技工室・医員技工室

① ユニット課題

インプラント治療の診断・計画・介補を行うために基本的な知識、技能、態度を習得する。

② 到達目標 (GIO)

骨結合型インプラントを理解するために種類、術式、適応症、禁忌症などについての知識、技能、態度を身につける。

③ 行動目標 (SB0s)

1. 欠損補綴におけるインプラント治療の位置づけを理解し、成功基準、リスク因子を説明できる。
2. インプラントの基本構造を説明できる。
3. インプラントに必要な解剖学的形態について説明できる。
4. インプラント治療の適応症と禁忌症について説明できる。
5. インプラント治療に必要な診察・検査を説明できる。
6. インプラント治療の治療計画の立案、インフォームド・コンセントについて説明できる。
7. インプラントの埋入手術を説明できる。
8. インプラント治療に必要な補綴治療について説明できる。
9. インプラントのメンテナンス・リコールについて説明できる。
10. インプラント治療における適応症と合併症について説明できる。
11. インプラント周囲炎の病態と対処法について説明できる。

④ 学習方法 (LS)

1. 計画室担当患者:指導医のもと、インプラント治療に関する一連の診療について見学・介補・実技を義務づける。担当医の指示を確認すること。
2. インプラント説明会の参加:臨床実習1に準ずる。
3. 外科処置・補綴処置見学:1回の見学・介補は、最大2人まで。事前に担当医のアポイント、指示を必要とする。

⑤ 評価方法 (EV)

- ・ 検印表の検印数、レポートの提出による。
- ・ レポートの提出の際には、口頭試問を実施する。

⑥ 備 考 (その他留意事項等)

- ・事前学習の上で、すべての実習に参加すること。
- ・見学介補について：患者の都合で変更があるので考慮すること。
見学の際には、必ず事前にアポイント印をもらうこと。見学できない場合もあり。
1回の見学は、最大2名まで。
- ・模型実習は、指定日に参加。
(病欠など診断書がある場合には応相談、それ以外不可)
- ・配属期間中の検印のみ有効。チーム診療の担当患者の場合には、
配属外の検印も有効。
(検印表 その2にID記入)
- ・口腔インプラント科員の検印のみ有効。
レポートは、口腔インプラント講座医員(教育医員)のみ。
- ・レポートは、見学日より、10日以内に担当医の検印を受け提出。
書き方は、表紙：①院内番号②氏名③見学日④担当医⑤課題名を記載
A4用紙で表紙を入れて4枚以上(厳守)、参考文献、図表を添付必須。
手書きのみ。
場合により、再レポートになる。
- *最初のクールで見学をしないと検印が足りなくなります。
患者の都合で予約変更になることも考慮して下さい。

平成25年度 臨床実習2 (10月～3月)

診療科名：スポーツ健康歯科

担当教員名：川良美佐雄（教授），黒木俊一（准教授），小見山 道（准教授），鈴木浩司（専任講師），浅野 隆（専任講師），飯田 崇（助教）

実施場所：日本大学松戸歯学部付属病院3階総合診療室

① ユニット課題

- ・スポーツマウスガード製作のための印象採得・装着・調整の見学
- ・睡眠時無呼吸症候群患者の口腔内装置製作治療における印象採得・装着・調整の見学

② 到達目標 (GIO)

患者の口腔外傷予防や健康増進に対する要望に応えるために、スポーツ歯科医学や睡眠健康科学に必要な知識，態度，技能を習得する。

③ 行動目標 (SBOs)

患者の口腔外傷予防や健康増進に対する要望に応えるために、スポーツ歯科医学や睡眠健康科学に必要な知識，態度，技能を習得する。

④ 学習方法 (LS)

- ・スポーツにおける顎口腔系の動態について説明できる
- ・スポーツマウスガードの目的を説明できる
- ・いびきや睡眠時無呼吸症候群の病態を説明できる
- ・いびきや睡眠時無呼吸症候群の歯科的対応について説明できる

⑤ 評価方法 (EV)

- ・模型印象等の実技
- ・チェアサイドでの診療見学および介補

⑥ 備 考 (その他留意事項等)

1. 臨床実習1の期間内に1回以上の見学を行い、レポート提出。その後、口頭試問を行う。
2. 見学ができなかった場合は、課題に対するレポート提出を行う。その後、口頭試問を行う。
3. レポートは見学後、2週間以内に担当医に提出する。
4. レポート提出後、速やかに口頭試問を受ける。
5. 見学のアポイントは担当医員に当該症例のアポイント状況を確認して取ること。

平成25年度院内生担当患者分類フローチャート

